

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-141261

⑬ Int. Cl.⁸

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)6月17日

C 07 D 231/14
A 61 K 31/415

ABE
ACK
AAH

7451-4C
7475-4C

C 07 D 31/44
231/12
401/04
408/04

7451-4C
7451-4C
7451-4C

審査請求 未請求 請求項の数 9 (全60頁)

⑮ 発明の名称 ビラゾール誘導体、その製造法およびそれを含有する医薬組成物

⑯ 特 願 平2-252319

⑰ 出 願 平2(1990)9月20日

優先権主張

⑱ 1989年9月22日⑲ イギリス(GB)⑳ 8921466.2

㉑ 1990年4月12日㉒ イギリス(GB)㉓ 9008399.9

⑳ 発 明 者 松 尾 昌 昭 大阪府豊中市中塚5-4-12

㉑ 発 明 者 辻 喜 良 大阪府岸和田市畑町170

㉒ 発 明 者 小 西 信 清 京都府長岡京市栗生田内22-7

㉓ 発 明 者 中 村 克 哉 兵庫県神戸市東灘区御影山手2丁目22-20-306

㉔ 出 願 人 藤沢薬品工業株式会社 大阪府大阪市中央区道修町3丁目4番7号

㉕ 代 理 人 弁理士 青 木 高

明 細 書

1. 発明の名称

ビラゾール誘導体、その製造法およびそれを含有する医薬組成物

2. 特許請求の範囲

(1) 式



[1]

【式中、R¹は低級アルキル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、水酸基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいアリール基;または複素環基を、R²は水素原子;アミノ基、低級アルキルアミノ基、

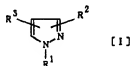
ハロゲン原子もしくはアシルオキシ基で置換されたメチル基;アシル基;アシルアミノ基;シアノ基;ハロゲン原子;低級アルキルチオ基;低級アルキルスルフィニル基;または複素環基を、R³は低級アルキル基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、ハロゲン原子、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基、低級アルキル(アシル)アミノ基、低級アルコキシ基、シアノ基、水酸基もしくはアシル基で置換されたアリール基;または低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換されていてもよい複素環基を示す。但し、R²がカルボキシ基、エステル化されたカルボキシ基またはトリ(ハロ)メチル基である場合、R³は低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基、低級アルキル(アシル)アミノ基、水酸基もしくはアシル基で置換されたアリール基;または低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキル

スルホニル基で置換された複素環基であるか、または R^1 が低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、水酸基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されたアリール基; または複素環基である]で置換される化合物およびその塩。

(2) R^2 が水素原子; アミノ基、低級アルキルアミノ基もしくはアシルオキシ基で置換されたメチル基; 低級アルキル基; シクロ(低級)アルキル基、アリール基および水酸基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいカルボニル基; 低級アルコキシ基で置換されていてもよい低級アルカノイル基; 複素環カルボニル基; アシルアミノ基; シアノ基; ハロゲン原子; 低級アルキルチオ基; 低級アルキルスルフィニル基; 低級アルキルスルホニル基; または複素環基である請求項(1)に記載の化合物。

合物。

(8) 式



[式中、 R^1 は低級アルキル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、水酸基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいアリール基; または複素環基を、 R^2 は水素原子; アミノ基、低級アルキルアミノ基、ハロゲン原子もしくはアシルオキシ基で置換されたメチル基; アシル基; アシルアミノ基; シアノ基; ハロゲン原子; 低級アルキルチオ基; 低級アルキルスルフィニル基; または複素環基を、 R^3

(3) R^3 がアリール基または複素環基を示し、それぞれ低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換されている請求項(2)に記載の化合物。

(4) R^3 が低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換されたアリール基である請求項(3)に記載の化合物。

(5) R^1 がハロゲン原子で置換されたフェニル基を、 R^2 がシアノ基を、 R^3 が低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換されたフェニル基である請求項(4)に記載の化合物。

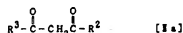
(6) $1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル$ である請求項(5)に記載の化合物。

(7) $1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル$ である請求項(5)に記載の化合物。

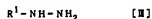
は低級アルキル基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、ハロゲン原子、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基、低級アルキル(アシル)アミノ基、低級アルコキシ基、シアノ基、水酸基もしくはアシル基で置換されたアリール基; または低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換されていてもよい複素環基を示す。但し、 R^2 がカルボキシ基、エステル化されたカルボキシ基またはトリ(ハロ)メチル基である場合、 R^3 は低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基、低級アルキル(アシル)アミノ基、水酸基もしくはアシル基で置換されたアリール基; または低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換された複素環基であるか、または R^1 が低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、水酸基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ

基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されたアリール基；または複素環基である]で置換される化合物またはその塩の製造法であって、

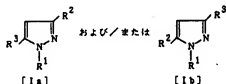
a) 式



で置換される化合物またはその塩を式

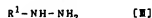


で置換される化合物またはその塩と反応させて、式

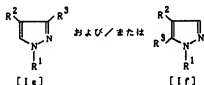


で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りであ

で置換される化合物またはその塩を式

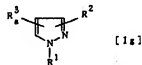


で置換される化合物またはその塩と反応させて、式



で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

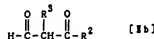
d) 式



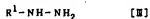
で置換される化合物またはその塩を酸化反応に付

る)を得るか、

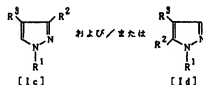
b) 式



で置換される化合物またはその塩を式

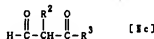


で置換される化合物またはその塩と反応させて、式

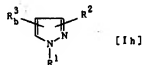


で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

c) 式

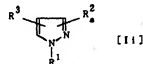


して、式



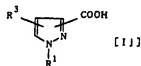
で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R^1 、 R^2 はそれぞれ前記定義の通りであり、 R^3 はアリール基または複素環基を示し、それぞれ低級アルキルオ基で置換されており、 R^3 はアリール基または複素環基を示し、それぞれ低級アルキルスルフィニル基または低級アルキルスホニル基で置換されている)を得るか、

e) 式



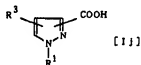
で置換される化合物またはその塩を脱エステル化

反応に付して、式

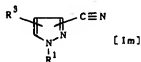


で置換される化合物またはその塩（前記式中、 R^1 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りであり、 R^2 はエステル化されたカルボキシ基を示す）を得るか、

f) 式

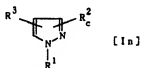


で置換される化合物またはそのカルボキシ基における反応性錯体またはその塩をアミンまたはホルムアミドおよびアルカリ金属アルコキシドと反応させて、式

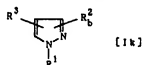
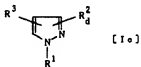


で置換される化合物またはその塩（前記式中、 R^1 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである）を得るか、

b) 式

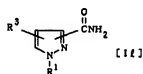


で置換される化合物またはその塩を還元反応に付して、式



で置換される化合物またはその塩（前記式中、 R^1 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りであり、 R^2 は低級アルキル基、アリール基、シクロ（低級）アルキル基および水酸基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいカルボニル基または含窒素複素環カルボニル基を示す）を得るか、

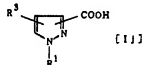
g) 式



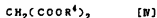
で置換される化合物またはその塩を脱水反応に付して、式

で置換される化合物またはその塩（前記式中、 R^1 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りであり、 R^2 は低級アルキル基で置換されていてもよいカルボニル基を、 R^2 は低級アルキル基で置換されていてもよいアミノメチル基を示す）を得るか、

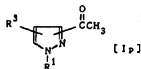
i) 式



で置換される化合物またはそのカルボキシ基における反応性錯体またはその塩を式

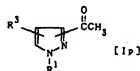


で置換される化合物と反応させ、次いで得られた生成物を加水分解に付して、式

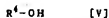


で表わされる化合物またはその塩（前記式中、 R^1 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りであり、 R^4 は低級アルキル基を示す）を得るか、

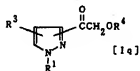
j) 式



で表わされる化合物またはその塩を式



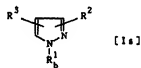
で表わされる化合物と反応させ、式



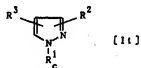
で表わされる化合物またはその塩（前記式中、 R^1 、 R^3 、 R^4 はそれぞれ前記定義の通りである）を得るか、

り置かれた置換基で置換されていてもよいアール基または複素環基を示し、 R^3 は前記定義の通りである）を得るか、

l) 式

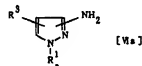


で表わされる化合物またはその塩を酸化反応に付して、式

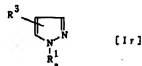


で表わされる化合物またはその塩（前記式中、 R^1 は低級アルキル基で置換されたアール基を、 R^1_c は低級アルキルスルフィニル基もしくは

k) 式



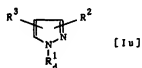
で表わされる化合物またはその塩を亜硝酸化合物と反応させて、式



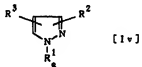
で表わされる化合物またはその塩（前記式中、 R^1 は低級アルキル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、水酸基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基および低級アルキル（アシル）アミノ基からなる群よ

は低級アルキルスルホニル基で置換されたアール基を、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義と同じである）を得るか、

n) 式



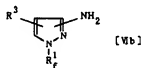
で表わされる化合物またはその塩を還元反応に付して、式



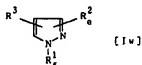
で表わされる化合物またはその塩（前記式中、 R^1 はニトロ基で置換されたアール基を、 R^1 はアミノ基で置換されたアール基を示し、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである）を得るか、

特開平3-141261(6)

a) 式



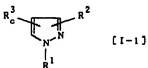
で置換される化合物またはその塩をアシル化反応に付して、式



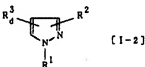
で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R_f^1 は低級アルキル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されている

もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基を示し、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

p) 式



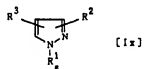
で置換される化合物またはその塩をアシル化反応に付して、式



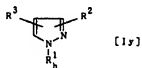
で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R_g^3 はアミノ基で置換されたアリール基を、 R_g^4 はアシルアミノ基で置換されたアリール基を示し、 R^1 、 R^2 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

てもよいアリール基または環状脂肪族基を、 R_g^2 はアシルアミノ基を示し、 R^3 は前記定義の通りである)を得るか、

o) 式

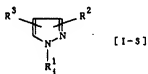


で置換される化合物またはその塩をアルキル化反応に付して、式

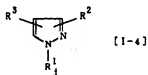


で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R_g^1 はアミノ基もしくはアシルアミノ基で置換されたアリール基を、 R_g^2 は低級アルキルアミノ基

q) 式

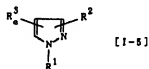


で置換される化合物またはその塩をアシル化反応に付して、式

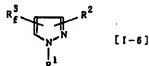


で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R_g^1 はアミノ基で置換されたアリール基を、 R_g^2 はアシルアミノ基で置換されたアリール基を示し、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

r) 式

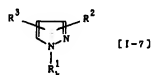


で置換される化合物またはその塩をアルキル化反応に付して、式

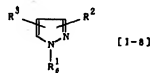


で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R_3 はアミノ基もしくはアシルアミノ基で置換されたアリール基を、 R_2 は低級アルキルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基を示し、 R^1 、 R^2 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

s) 式

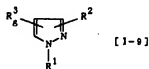


で置換される化合物またはその塩を酸アルキル化反応に付して、式

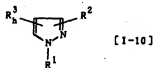


で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R_3 はアシルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基を、 R_2 はアミノ基もしくは低級アルキルアミノ基で置換されたアリール基を示し、 R^1 、 R^2 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

t) 式

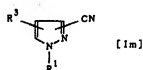


で置換される化合物またはその塩を酸アルキル化反応に付して、式

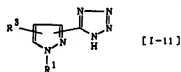


で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R_3 はアシルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基を、 R_2 はアミノ基もしくは低級アルキルアミノ基で置換されたアリール基を示し、 R^1 、 R^2 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

u) 式

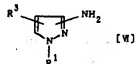


で置換される化合物またはその塩をアジド化合物と反応させて、式

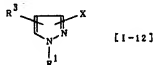


で置換される化合物またはその塩(前記式中、 R^1 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

v) 式

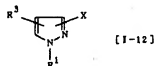


で表わされる化合物またはその塩を亜硝酸化合物と反応させ、次いで生成物をハロゲン化第一銅と反応させて、式

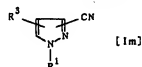


で表わされる化合物またはその塩(前記式中、Xはハロゲン原子を示し、 R^1 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

v) 式

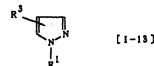


で表わされる化合物またはその塩をシアン化第一銅と反応させて、式

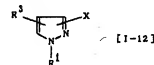


で表わされる化合物またはその塩(前記式中、 R^1 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

x) 式

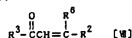


で表わされる化合物またはその塩をハロゲン原子と反応させて、式

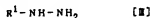


で表わされる化合物またはその塩(前記式中、 R^1 、 R^3 、Xはそれぞれ前記定義の通りである)を得るか、

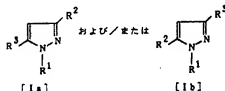
y) 式



で表わされる化合物またはその塩を式



で表わされる化合物またはその塩と反応させて、式



で表わされる化合物またはその塩(前記式中、 R^6 は低級アルキルチオ基を示し、 R^1 、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りである)を得ることを特徴とする前記製造法、

(9) 請求項(1)の化合物またはその塩を有効成分として含有する医薬組成物。

3. 発明の詳細な説明

この発明は新規なピラゾール誘導体およびその塩に関する。

さらに詳細には、この発明は、抗炎症、鎮痛、抗血栓作用を有する新規ピラゾール誘導体およびその塩、その製造法、それを含有する医薬組成物およびヒトあるいは動物での炎症症状、腫々の疼痛、膠原病、自己免疫疾患、腫々の免疫疾患、血栓症の治療および/または予防を目的とした医療に用いる方法、より具体的には、関節・筋肉の炎症と疼痛[たとえば、慢性関節リウマチ、リウマチ性骨格炎、骨関節症、痛風性関節炎など]、炎症性皮膚症状[たとえば、日光過敏症など]、炎症性腸症状[たとえば、結腸炎など]、炎症が関与する肺疾患[たとえば、喘息、気管炎、ハト飼育者肺、肺炎など]、炎症に伴う消化器症状[たとえば、アフタ性潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎、急性慢性大腸炎、小児腸炎便

症、限局性関節炎、過敏性腸症候群など）、歯肉炎、歯槽または外傷後の炎症、疼痛、腫脹、発熱、炎症に伴う疼痛などの症状、にリボキシゲナーゼ、シクロオキシゲナーゼ産物が因子であるもの、全身性エリテマトーデス、膿皮症、多発性筋炎、結節性動脈周囲炎、リウマチ熱、シェーグレン症候群、ペーシェット病、甲状腺炎、I型糖尿病、ネフローゼ症候群、再生不良性貧血、重症筋無力症、ブドウ膜炎、接触性皮炎、乾癬、川崎病、サルコイドーシス、ホジキン病などの治療および／または予防の方法に関する。

さらに、目的化合物は両血腫または両腫血症が原因となる疾患、および循環器系疾患または脳血管疾患の治療薬および／または予防薬として有用であることが期待される。

この発明の目的は抗炎症、鎮痛、抗血栓作用を有する新規かつ有用なピラゾール誘導体およびその塩を提供することにある。

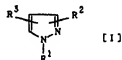
この発明の他の目的は、前記ピラゾール誘導体およびその塩の製造法を提供することにある。

この発明のさらに他の目的は、前記ピラゾール誘導体およびその医薬として許容される塩を有効成分として含有する医薬組成物を提供することにある。

この発明のいまだ一つの目的は、前記ピラゾール誘導体およびその医薬として許容される塩を用いて炎症症状、種々の疼痛、その他前記疾患の治療および／予防法を提供することにある。

抗炎症および鎮痛作用を持つピラゾール誘導体のあるものは、例えば、カナダ特許1130808、ヨーロッパ特許出願公開番号272704および293220に記載の如く、既に知られている。

この発明の目的化合物であるピラゾール誘導体は新規であり、下記の一般式[I]で表わされる化合物



【式中、R¹は低級アルキル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、水酸基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいアリール基；または複素環基を、R²は水素原子；アミノ基、低級アルキルアミノ基、ハロゲン原子もしくはアシルオキシ基で置換されたメチル基；アシル基；アシルアミノ基；シアノ基；ハロゲン原子；低級アルキルチオ基；低級アルキルスルフィニル基；または複素環基を、R³は低級アルキル基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、ハロゲン原子、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基、低級アルキル(アシル)アミノ基、低級アルコキシ基、シアノ基、水酸基もしくはアシル基で置換されたアリール基；または低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキル

ルスルホニル基で置換されていてもよい複素環基を示す。但し、R²がカルボキシ基、エステル化されたカルボキシ基またはトリ(ハロ)メチル基である場合、R³は低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基、低級アルキル(アシル)アミノ基、水酸基もしくはアシル基で置換されたアリール基；または低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換された複素環基であるか、またはR¹が低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、水酸基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、アミノ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されたアリール基；または複素環基である。】およびその塩である。

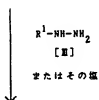
目的化合物[I]またはその塩は下記の製造法によって製造することができる。

製造法 1

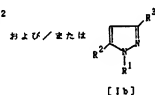


[IIa]

またはその塩



またはその塩



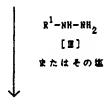
またはその塩

製造法 2

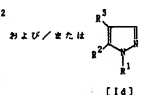


[IIb]

またはその塩



またはその塩



またはその塩

製造法 3

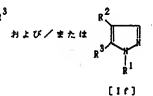


[IIc]

またはその塩



またはその塩

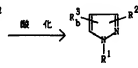


またはその塩

製造法 4



またはその塩

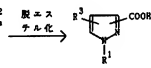


またはその塩

製造法 5

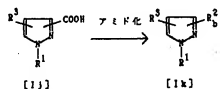


またはその塩



またはその塩

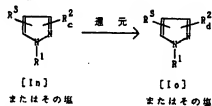
製造法6



またはそのカルボキシ基における反応性錯体またはその塩

またはその塩

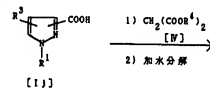
製造法8



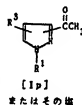
またはその塩

またはその塩

製造法9

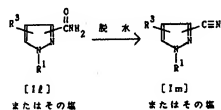


またはそのカルボキシ基における反応性錯体またはその塩



またはその塩

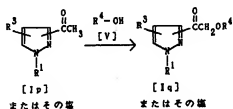
製造法7



またはその塩

またはその塩

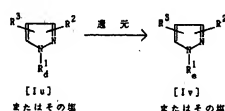
製造法10



またはその塩

またはその塩

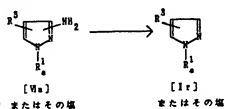
製造法13



またはその塩

またはその塩

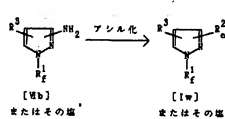
製造法11



またはその塩

またはその塩

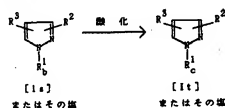
製造法14



またはその塩

またはその塩

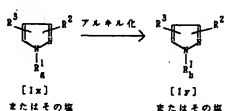
製造法12



またはその塩

またはその塩

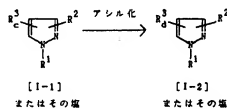
製造法15



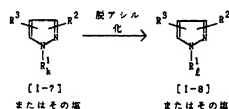
またはその塩

またはその塩

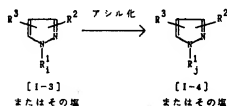
製造法16



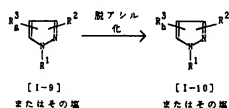
製造法17



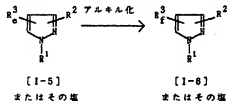
製造法18



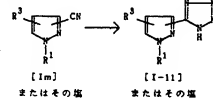
製造法19



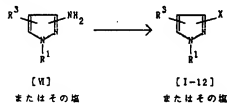
製造法20



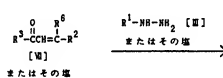
製造法21



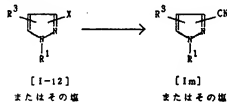
製造法22



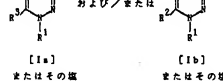
製造法23



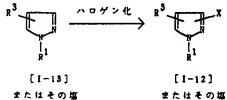
製造法24



製造法25



製造法25



[式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 はそれぞれ前記定義の通りであり、 R^4 はアリール基または複素環基で、それぞれ低級アルキルオキシ基で置換されており、 R^5 はアリール基または複素環基で、それぞれ低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換されており、 R^6 はエステル化されたカルボキシ基を、 R^7 は低級アルキル

ル基、アリール基、シクロ(低級)アルキル基および水酸基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいカルボニル基または含窒素芳香族カルボニル基を、 R_2^2 は低級アルキル基で置換されていてもよいカルボニル基を、 R_2^2 は低級アルキル基で置換されていてもよいアミノメチル基を、 R^4 は低級アルキル基を、 R_1^1 は低級アルキル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、水酸基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、低級アルキルアミノ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいアリール基または複素環基を、 R_1^1 は低級アルキルチオ基で置換されたアリール基を、 R_1^1 は低級アルキルスルフィニル基もしくは低級アルキルスルホニル基で置換されたアリール基を、 R_1^1 はニトロ基で置換されたアリール基を、 R_1^1 はアミノ基で置

換されたアリール基を、 R_1^1 は低級アルキル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルフィニル基、低級アルキルスルホニル基、低級アルキルスルホニルオキシ基、ニトロ基、アシルアミノ基および低級アルキル(アシル)アミノ基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいアリール基または複素環基を、 R_2^2 はアシルアミノ基を、 R_1^1 はアミノ基もしくはアシルアミノ基で置換されたアリール基を、 R_1^1 は低級アルキルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基を、 R_2^2 はアミノ基で置換されたアリール基を、 R_1^1 はアシルアミノ基で置換されたアリール基を、 R_2^2 はアミノ基もしくはアシルアミノ基で置換されたアリール基を、 R_2^2 は低級アルキルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)ア

ミノ基で置換されたアリール基を、 R_1^1 はアシルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基を、 R_1^1 はアミノ基もしくは低級アルキルアミノ基で置換されたアリール基を、 R_2^2 はアシルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基を、 R_2^2 はアミノ基もしくは低級アルキルアミノ基で置換されたアリール基を、Xはハロゲン原子を、 R^5 は低級アルキルチオ基を示す。]

この明細書の以上の説明および以下の説明において、この発明の範囲に含まれる種々の変形の適切な例を次に詳細に説明する。

「低級」とは特に説明しない限り、炭素原子1ないし8個を意味する。

「低級アルキル基」および「低級アルキルチオ基」、「低級アルキルスルホニル基」、「低級アルキル(アシル)アミノ基」、「低級アルキルスルフィニル基」、「低級アルキルスルホニルオキシ基」の低級アルキル部分の適切な例としては、直鎖状または分枝鎖状のもの、例えば、メチル

基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基、イソブチル基、セブチル基、ペンチル基、ヘキシル基などが挙げられ、それらの中でもメチル基が好ましい。

「低級アルコキシ基」の適切な例としては、メトキシ基、エトキシ基、プロポキシ基、イソプロポキシ基、ブトキシ基、イソブトキシ基、セブトキシ基などが挙げられ、それらの中でもメトキシ基が好ましい。

「アリール基」の適切な例としては、フェニル基、ナフチル基などが挙げられ、それらの中でもフェニル基が好ましい。

R^1 のアリール基は1ないし5個の既に述べた如き置換基で置換されていてもよく、 R^3 のアリール基は1ないし5個の既に述べた如き置換基で置換されており、それらの中でも好ましい置換基の数は1ないし3個である。

「複素環基」の適切な例としては、窒素原子、酸素原子または硫黄原子などのヘテロ原子を少なくとも1個を含む環状または多環式の飽和または

は不飽和複素環基が挙げられる。

前記定義の「複素環基」の好ましい例としては、
 窒素原子1ないし4個を含む3ないし8員、より好ましくは5ないし6員の不飽和複素単環基、例えばピロリル基、イミダゾリル基、ピラゾリル基、ピリジル基、ピリジン-N-オキシド基、ジヒドロピリジル基、テトラヒドロピリジル基、ピリミジル基、ピラジニル基、ピリダジニル基、トリアジニル基、トリアゾリル基、テトラジニル基、テトラゾリル基など；酸素原子1ないし4個を含む3ないし8員、より好ましくは5ないし6員の飽和複素単環基、例えばピロリジニル基、イミダゾリジニル基、ピペリジニル基、ピペラジニル基など；窒素原子1ないし5個を含む不飽和融合複素環基、例えばインドリル基、イソインドリル基、インドリジニル基、ベンズイミダゾリル基、キノリル基、イソキノリル基、インダゾリル基、ベンゾトリアゾリル基など；酸素原子1ないし2個および窒素原子1ないし3個を含む3ないし8員の不飽和複素単環基、例えばオキサゾリル基、イソオ

キサゾリル基、オキサジアゾリル基など；酸素原子1ないし2個および窒素原子1ないし3個を含む3ないし8員の飽和複素単環基、例えばモルホリノ基、シドノニル基など；酸素原子1ないし2個および窒素原子1ないし3個を含む不飽和融合複素環基、例えばベンゾキサゾリル基、ベンゾキサジアゾリル基など；硫黄原子1ないし2個および窒素原子1ないし3個を含む3ないし5員の飽和複素単環基、例えばチアゾリル基、イソチアゾリル基、チアジアゾリル基など；硫黄原子1ないし2個を含む3ないし8員の飽和複素単環基、例えばチアニル基など；硫黄原子1ないし2個および窒素原子1ないし3個を含む不飽和融合複素環基、例えばベンゾチアゾリル基、ベンゾチアジアゾリル基など；酸素原子1個を含む3ないし8員の飽和複素単環基、例えばフリル基など；硫黄原子1ないし2個を含む不飽和融合複素環基、例えば、ベンゾチアニル基など；などが挙げられる。

前記「複素環基」は既に述べた加き低級アルキル基で置換されていてもよく、それらの中でも好ましいものはピロリジニル基、N-メチルピペラジニル基、テトラゾリル基、チアニル基またはピリジル基である。

「シクロ(低級)アルキル基」の好ましい例としては、シクロプロピル基、シクロブチル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基などが挙げられ、それらの中でもシクロプロピル基が好ましい。

(以下余白)

「ハロゲン原子」の好ましい例としては、フッ素、塩素、臭素および砒素が挙げられ、それらの中でもフッ素が好ましい。

「低級アルキルアミノ(低級)アルキル基」の適当な例としては、モノ-またはジ(低級アルキル)アミノ置換低級アルキル基、例えばメチルアミノメチル基、メチルアミノエチル基、メチルアミノプロピル基、メチルアミノヘキシル基、エチルアミノメチル基、エチルアミノエチル基、エチルアミノプロピル基、エチルアミノヘキシル基、ジメチルアミノメチル基、ジメチルアミノエチル基、ジメチルアミノプロピル基、ジメチルアミノヘキシル基、ジエチルアミノメチル基、ジエチルアミノエチル基、ジエチルアミノプロピル基、ジエチルアミノヘキシル基などが挙げられる。

「低級アルキルアミノ基」および「低級アルキルアミノメチル基」における低級アルキルアミノ部分の適当な例としては、モノ-またはジ(低級アルキル)アミノ基、例えばメチルアミノ基、エ

アルミノ基、ジメチルアルミノ基、ジエチルアルミノ基などが挙げられる。

「ハロ(低級)アルキル基」の適当な例としては、クロロメチル基、フルオロメチル基、ブロモメチル基、ジフルオロメチル基、ジクロロメチル基、トリフルオロメチル基、トリクロロメチル基、2-フルオロエチル基などが挙げられる。

「アシル基」および「アシルオキシ基」、「アシルアミノ基」、「低級アルキル(アシル)アミノ基」におけるアシル部分の適当な例としては、カルボキシ基；エステル化されたカルボキシ基；低級アルキル基、シクロ(低級)アルキル基、アリール基および水酸基からなる群より選ばれた置換基で置換されていてもよいカルバモイル基；低級アルコキシ基で置換されていてもよい低級アルコノイル基；複素環カルボニル基；低級アルキルホル基などが挙げられる。

エステル化されたカルボキシ基は置換または無置換低級アルコキシカルボニル基(例えばメトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基、プロポ

キシカルボニル基、ブトキシカルボニル基、ヘキシルオキシカルボニル基、2-エトキシカルボニル基、2,2-エトキシカルボニル基など)、置換または無置換アリールオキシカルボニル基(例えばフェノキシカルボニル基、4-ニトロフェノキシカルボニル基、2-ナフチルオキシカルボニル基など)、置換または無置換アル(低級)アルコキシカルボニル基(例えばベンジルオキシカルボニル基、フェニルオキシカルボニル基、ベンズトドリルオキシカルボニル基、4-ニトロベンジルオキシカルボニル基など)などであってよい。

低級アルコノイル基としてはホルミル基、アセチル基、プロピニル基、ブチル基、イソブチル基、ペンチル基、イソペンチル基、ヒパロイル基、ヘキサノイル基などが挙げられる。

「複素環カルボニル基」における複素環部分としては、「複素環基」で例示したものと同一である。

「複素環カルボニル基」の適当な例としては、ピロリジンカルボニル基、イミダゾリジンカルボニル基、ピペリジンカルボニル基、ピペリジンカルボニル基、N-メチルピペリジンカルボニル基などの含窒素複素環カルボニル基が挙げられ、それらの中でも好ましいものはピロリジンカルボニル基またはN-メチルピペリジンカルボニル基である。

「低級アルキルホル基」の適当な例としてはメチルホル基、エチルホル基、プロピルホル基などが挙げられ、それらの中でメチルホル基が好ましい。

「低級アルキルスルフィニル基」の適当な例としては、メチルスルフィニル基、エチルスルフィニル基、プロピルスルフィニル基などが挙げられ、それらの中でもメチルスルフィニル基が好ましい。

目的化合物[I]の塩の適当な例としては、慣用の無毒性の塩であって、酸付加塩、例えば無機酸との付加塩(例えば、塩酸塩、臭化水素酸塩、炭

酸塩、磷酸塩など)、有機酸との付加塩(例えば、塩酸塩、酢酸塩、トリフルオロ酢酸塩、マレイン酸塩、酒石酸塩、メタン磺酸塩、ペンゼンスルホン酸塩、トルエンスルホン酸塩など)、アミノ酸との塩(例えば、アルギニン塩、アスパラギン酸塩、グルタミン酸塩など)、金属塩、例えばアルカリ金属塩(例えば、ナトリウム塩、カリウム塩など)およびアルカリ土類金属塩(例えば、カルシウム塩、マグネシウム塩など)、アンモニウム塩、有機塩基との付加塩(例えば、トリメチルアミン塩、トリエチルアミン塩など)などが挙げられる。

目的化合物[I]の製造法を次に詳細に説明する。

製造法

化合物[Ia]またはその塩および/または化合物[Ib]またはその塩は、化合物[IIa]またはその塩を化合物[II]またはその塩と反応させて製造することができる。

化合物[IIa]および[II]の塩の適当な例としては、化合物[I]で示したものと同じものを例示することができる。

この反応は、通常、アルコール（例えば、メタノール、エタノールなど）、ジオキサン、テトラヒドロフラン、酢酸、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒などの慣用の溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、通常、加熱下で反応は行われる。

製造法2

化合物[Ic]またはその塩および／または化合物[Id]またはその塩は、化合物[IIb]またはその塩を化合物[II]またはその塩と反応させて製造することができる。

化合物[IIb]および[II]の塩の適当な例としては、化合物[I]で示したものと同じものが挙げられる。

この反応は、製造法1と實質的に同様の方法で行われるので、この反応の反応様式ならびに反応条件（例えば、溶媒、反応温度など）も製造法1

ン酸カリウム、過沃素酸アルカリ金属（例えば、過沃素酸カリウムなど）などが挙げられる。

この反応は、通常、酢酸、ジクロロメタン、アセトン、酢酸エチル、クロロホルム、水、アルコール（例えば、メタノール、エタノールなど）などの反応に影響を及ぼさない溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、通常、冷却ないし加熱下で反応は行われる。

この反応では、 R^1 が低級アルキル基若しくは置換されたアリール基および／または R^2 が低級アルキル基若しくは置換されたアリール基である化合物[Ia]を原料化合物として用いる場合、 R^1 が低級アルキル基スルフィニル基または低級アルキル基スルホニル基で置換されたアリール基および／または R^2 が低級アルキル基スルフィニル基または低級アルキル基スルホニル基である化合物[Ib]が反応条件によって得られることがある。これらの場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

に示した通りでよい。

製造法3

化合物[Ia]またはその塩および／または化合物[Ic]またはその塩は化合物[IIc]またはその塩を化合物[II]またはその塩と反応させることにより製造することができる。

化合物[Ic]および[II]の塩の適当な例としては化合物[I]で示したものと同じものが挙げられる。

この反応は製造法1と實質的に同様に行われるので、この反応の反応様式および反応条件（例えば、溶媒、反応温度など）も製造法1に示した通りでよい。

製造法4

化合物[Ib]またはその塩は化合物[Ia]またはその塩を酸化剤と反応させることにより製造することができる。

適当な酸化剤としては、過酸化水素、ジョーンズ試薬、過酸（例えば、過酢酸、過安息香酸、m-クロロ過安息香酸など）、クロム酸、過マンガン

製造法5

化合物[I]およびその塩は化合物[Ii]またはその塩を酸エステル化反応に付すことによって製造することができる。

この反応は、加水分解、還元などの常法に従って行われる。

加水分解は塩基またはルイス酸を含む酸の存在下で行うことが好ましい。適当な塩基としては、無機塩基および有機塩基、例えば、アルカリ金属（例えば、ナトリウム、カリウムなど）、アルカリ土類金属（例えば、マグネシウム、カルシウムなど）、それらの水酸化物もしくは炭酸塩もしくは炭酸水素塩、トリアルキルアミン（例えば、トリメチルアミン、トリエチルアミンなど）、ピコリン、1,5-ジアザビシクロ[4.3.0]ノネン-5、1,4-ジアザビシクロ[2.2.2]オクタン、1,8-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデセン-7などが挙げられる。適当な酸としては、有機酸（例えば、硫酸、酢酸、プロピオン酸、トリクロロ酢酸、トリフルオロ酢酸など）、無機酸

(例えば、塩酸、臭化水素酸、炭化水素酸、硫酸など)および路易斯酸(例えば、三臭化ホウ素など)などが挙げられる。

反応は、通常、水、アルコール(例えば、メタノール、エタノールなど)、塩化メチレン、テトラヒドロフラン、それらの混合物、その他反応に悪影響を及ぼさない溶媒などの溶媒中で行われる。液状の塩基または酸は溶媒としても用いることができる。反応温度は特に限定されず、通常、冷却ないし加温下で反応は行われる。

反応は、エステル部分、例えば、4-ニトロベンジル、2-ロードエステル、2,2,2-トリクロロエチルなどの脱離に好適に用いることができる。脱離反応に適用できる還元方法としては化学還元および接触還元が挙げられる。

化学還元を用いられる適当な還元剤としては、金属(例えば、亜鉛、亜鉛、鉄など)または金属化合物(例えば、塩化クロム、酢酸クロムなど)と有機もしくは無機酸(例えば、塩酸、酢酸、プロピオン酸、トリフルオロ酢酸、p-トルエン酸

ホン酸、塩酸、臭化水素酸など)との組合である。

接触還元を用いられる適当な触媒としては、白金触媒(例えば、白金、白金炭、白金黒、白金、コロイド白金、酸化白金、白金酸など)、パラジウム触媒(例えば、パラジウム黒、パラジウム酸、酸化パラジウム、パラジウム炭、コロイドパラジウム、パラジウム-硫酸バリウム、パラジウム-炭酸バリウムなど)、ニッケル触媒(例えば、還元ニッケル、酸化ニッケル、ラネーニッケルなど)、コバルト触媒(例えば、還元コバルト、ラネーコバルトなど)、鉄触媒(例えば、還元鉄、ラネー鉄など)、銅触媒(例えば、還元銅、ラネー銅、ウルマン銅など)などの使用のものが挙げられる。

還元は、通常、水、アルコール(例えば、メタノール、エタノール、プロパノールなど)、N,N-ジメチルホルムアミドまたはそれらの混合物など反応に悪影響を及ぼさない慣用の溶媒中で行われる。さらに、化学還元を用いられる前記酸が

液状の場合、これらは溶媒としても使用することができる。また、接触還元を用いられる触媒の適当な例としては、前記触媒、その他ジエチルエーテル、ジオキサン、テトラヒドロフランなどの慣用の溶媒またはそれらの混合物が挙げられる。

反応温度は特に限定されず、通常、冷却ないし加温下で反応は行われる。

この反応では、 R^1 が低級アルコキシ基で置換されたアリール基である化合物[1]を原料化合物として用いる場合、 R^1 が水酸基で置換されたアリール基である化合物[1]が反応条件によって得られることがある。これらの場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

製造法

化合物[1]またはその塩は化合物[1]またはそのカルボキシ基における反応性基またはその塩をアミンまたはホルムアミドおよびアルカリ金属アルコキシドと反応させることにより製造することができる。

「アミン」の適当な例としては、アンモニア、低級アルキルアミン、アリールアミン、シクロ(低級)アルキルアミン、低級アルキルヒドロキシルアミン、アミン酸、含窒素高異性化合物などが挙げられる。

低級アルキルアミンとしては、モノ-またはジ(低級)アルキルアミン、例えば、メチルアミン、エチルアミン、プロピルアミン、イソプロピルアミン、ブチルアミン、イソブチルアミン、ペンチルアミン、ヘキシルアミン、ジメチルアミン、ジエチルアミン、ジプロピルアミン、ジブチルアミン、ジイソプロピルアミン、ジペンチルアミン、ジヘキシルアミンなどが挙げられ、それらの中でもメチルアミンまたはジメチルアミンが好ましい。

アリールアミンとしては、アニリン、ナフチルアミンなどが挙げられる。シクロ(低級)アルキルアミンとしてはシクロプロピルアミン、シクロブチルアミン、シクロペンチルアミン、シクロヘキシルアミンなどが挙げられ、それらの中でも好

ましいものはシクロプロピルアミンである。

低級アルキルヒドロキシルアミンとしては、メチルヒドロキシルアミン、エチルヒドロキシルアミン、プロピルヒドロキシルアミン、ブチルヒドロキシルアミン、イソブチルヒドロキシルアミンなどが挙げられ、それらの中でもメチルヒドロキシルアミンが好ましい。

アミノ酸としては、グリシン、アラニン、β-アラニン、イソロイシン、テロシンなどが挙げられ、それらの中でもグリシンが好ましい。

含窒素複素環式化合物としては、N含有またはNおよびS含有またはNおよびO含有5～8員の飽和複素環式化合物、例えば、ピロリジン、イミダゾリジン、ピペリジン、ピペラジン、N-(低級)アルキルピペラジン(例えば、N-メチルピペラジン、N-エチルピペラジンなど)、モルホリン、テオモルホリンなどが挙げられ、それらの中でもピロリジンまたはN-メチルピペラジンが好ましい。

ロフェニルエステル、2,4-ジニトロロフェニルエステル、ペンタクロロロフェニルエステル、ナフタリルエステルなど)などのエステルあるいはN、N-ジメチルヒドロキシルアミン、N-ヒドロキスクスチンイミド、N-ヒドロキシフタルイミドまたは1-ヒドロキシー-6-クロロ-1H-ベンゾトリアゾールとのエステルなどが挙げられる。

反応は、通常、水、アセトン、ジオキサン、クロロホルム、塩化メチレン、塩化エチレン、テトラヒドロフラン、ホルムアミド、酢酸エチル、N、N-ジメチルホルムアミド、ピリジン、その塩反応に悪影響を及ぼさない有機溶媒などの慣用の溶媒中で行われる。これらの溶媒中、親水性溶媒は水との混合物として用いることができる。

反応に化合物[I]を遊離酸の形で用いる場合、慣用の融合剤、例えば、N、N'-ジシクロヘキシルカルボジイミド、N-シクロヘキシル-N'-モルホリノエチルカルボジイミド、N-エチル-N'-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド、塩化チオニル、塩化オキサリル、

「アルカリ金属アルコキシド」の適当な例としては、ナトリウムメトキシド、ナトリウムエトキシド、カリウムメトキシドなどが挙げられる。

化合物[I]のカルボキシ基における適当な反応性基として、エステル、酸ハロゲン化物、酸無水物などが挙げられる。反応性基としての適当な例としては酸ハロゲン化物(例えば、酸塩化物、酸臭化物など)；対称形酸無水物；1,1'-カルボニルジイミダゾールあるいは脂肪族酸(例えば、酢酸、ピル酸など)などの酸または置換炭酸(例えば、ジアルキル炭酸、ジフェニル炭酸など)との混合酸無水物；低級アルキルエステル(例えばメチルエステル、エチルエステル、プロピルエステル、ヘキシルエステルなど)、置換または無置換アル(低級)アルキルエステル(例えばベンジルエステル、ベンズヒドリルエステル、p-クロロベンジルエステルなど)、置換または無置換アリールエステル(例えばフェニルエステル、トリルエステル、4-ニト

低級アルコキシカルボニルハロゲン化物(例えば、クロロ炭酸エチル、クロロ炭酸イソブチルなど)、1-(p-クロロベンゼンホルニルオキシ)-6-クロロ-1H-ベンゾトリアゾールなどの存在下で行うことが好ましい。反応は、また、慣用の塩基、例えばトリエチルアミン、ピリジン、水酸化ナトリウムなどの存在下で行うことが好ましい。

反応温度は特に限定されず、冷却ないし加熱下で反応は行われる。

製造例7

化合物[Ia]またはその塩は化合物[I]またはその塩を脱水剤と反応させることにより製造することができる。

脱水剤の適当な例としては、燐化合物(例えば、五酸化燐、五塩化燐、オキシ塩化燐など)、塩化チオニル、酸無水物(例えば、無水酢酸など)、ホスゲン、塩化アリールスルホン(例えば、塩化ベンゼンスルホン、塩化p-トルエンスルホンなど)、塩化メチルスルホン、スル

製造法10

化合物[Iq]またはその塩は化合物[Ip]またはその塩を化合物[V]と反応させることによって製造することができる。

この反応はトリウム(III)塩(例えば、硝酸トリウム(III)など)などの存在下で行うことが好ましい。

反応は、通常、ジオキサン、テトラヒドロフラン、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒などの溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、室温または加温ないし加熱下で反応を行うことが好ましい。

製造法11

化合物[Ir]またはその塩は化合物[Va]またはその塩を亜硝酸化合物と反応させることによって製造することができる。

化合物[Va]の適当な塩としては化合物[I]で示したものと同じものを例示することができる。

適当な亜硝酸化合物の例としては亜硝酸アルカリ金属(例えば、亜硝酸ナトリウム、亜硝酸カリ

ウムなど)、亜硝酸アルカリ(例えば、亜硝酸：一ブチルなど)などが挙げられる。

この反応は、通常、塩化第二銅、次亜硫酸などの存在下で行われる。

反応は、通常、ジオキサン、テトラヒドロフラン、アセトニトリル、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒などの溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、冷却ないし加熱下で反応は行われる。

(以下余白)

製造法12

化合物[Iu]またはその塩は化合物[Ib]またはその塩を酸化剤と反応させることによって製造することができる。

この反応は、製造法4と實質的に同様に行われるので、この反応の反応様式および反応条件(例えば、溶媒、反応温度など)も製造法4に示した通りでよい。

この反応では、 R^2 が低級アルキルチオ基および/または R^3 が低級アルキルチオ基で置換されたアリール基または低級アルキルチオ基で置換された複素環系である化合物[Ib]を原料化合物として用いる場合、 R^2 が低級アルキルスルフィニル基または低級アルキルホルニル基および/または R^3 が低級アルキルスルフィニル基または低級アルキルホルニル基で置換されたアリール基または同様に置換された複素環系である化合物[Ic]が反応条件によって得られることがある。これらの場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

製造法13

化合物[Iv]またはその塩は化合物[Iu]またはその塩を還元することによって製造することができる。

反応は化学還元および触媒還元を含み、これらは常法によって行われる。

化学還元を用いられる還元剤の適当な例としては、金属(例えば、銅、亜鉛、鉄など)、前記金属および/または金属化合物(例えば、塩化クロム、酢酸クロムなど)と有機もしくは無機酸(例えば、醋酸、酢酸、プロピオン酸、トリフルオロ酢酸、p-トルエンスルホン酸、塩酸、臭化水素酸など)との組合せ、前記金属および/または金属化合物と塩基(例えば、アンモニア、塩化アンモニウム、水酸化ナトリウムなど)との組合せ、水素化金属化合物、例えば、水素化アルミニウム化合物(例えば、水素化アルミニウムリチウム、水素化アルミニウムナトリウム、水素化アルミニウム、水素化トリメチルシリルアルミニウムリチウム、水素化トリイソブチルシリルアルミニウムリチ

ウムなど)、水素化銅系化合物(例えば、水素化銅系ナトリウム、水素化銅系リチウム、水素化シアン系ナトリウム、水素化銅系テトラメチルアンモニウム、ボラン、ジボランなど)、燐化合物(例えば、三硫化燐、三臭化燐、トリフェニルホスフィン、トリエチルホスフィンなど)などが挙げられる。

反応還元に用いられる接触の適当な例としては、白金触媒(例えば、白金板、白金箔、白金晶、コロイド白金、酸化白金、白金系など)、パラジウム触媒(例えば、パラジウム酸、パラジウム黒、酸化パラジウム、パラジウム炭、コロイドパラジウム、パラジウム-炭酸バリウム、パラジウム-炭酸バリウムなど)、ニッケル触媒(例えば、還元ニッケル、酸化ニッケル、ラネーニッケルなど)、コバルト触媒(例えば、還元コバルト、ラネーコバルトなど)、鉄触媒(例えば、還元鉄、ラネー鉄など)、銅触媒(例えば、還元銅、ラネー銅、ウラン銅など)などの慣用のものが挙げられる。

有機物の反応性誘導体の適当な例としては、酸ハロゲン化物(例えば、酸塩化物、酸臭化物など)、酸アジド、酸無水物、活性アミド、活性エステルなどの慣用のものが挙げられる。

遊離酸をアルシ化剤として用いる場合、アルシ化反応は、 N,N' -ジシクロヘキシルカルボジイミドなどの慣用の縮合剤の存在下で行うことが好ましい。

反応は、通常、水、アセトン、ジオキサン、クロロホルム、塩化メチレン、アセトニトリル、塩化エチレン、チトラヒドロフラン、酢酸エチル、 N,N -ジメチルホルムアミド、ピリジン、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒またはそれらの混合物などの慣用の溶媒中で行われる。

反応は、また、トリエチルアミン、ピリジン、水酸化ナトリウムなどの慣用の塩基の存在下で行うことが好ましい。

反応温度は特に限定されず、冷却ないし加熱下で反応は行われる。

還元は、通常、溶媒の存在下で行われる。使用される溶媒の適当な例としては、水、アルコール(例えば、メタノール、エタノール、プロパノールなど)、アセトニトリル、その他の慣用の有機溶媒、例えば、ジエチルエーテル、ジオキサン、チトラヒドロフランなど、またはそれらの混合物などが挙げられる。

反応温度は特に限定されず、加熱ないし加熱下で反応を行うことが好ましい。

製造例14

化合物[1w]またはその塩は化合物[1v]またはその塩をアルシ化剤と反応させることによって製造することができる。

化合物[1v]の適当な塩としては、化合物[1]で示したものと同一ものを例示することができる。

アルシ化剤としては、式 R^5-OH (式中、 R^5 は既に述べた如きアルシ基またはその反応性誘導体を示す)で表わされる有機物が挙げられる。

製造例15

化合物[1y]またはその塩は化合物[1x]またはその塩をアルシ化剤と反応させることによって製造することができる。

適当なアルシ化剤としては、低級アルキルハライド(例えば、炭化メチル、臭化エチルなど)、カルボニル化合物、例えば、脂肪族ケトン(例えば、アセトン、メチルエチルケトンなど)、カルボアルデヒド(例えば、ホルムアルデヒド、エタナルなど)、オルトカルボン酸エステル(例えば、オルトカルボトリエチルなど)などと化学還元剤および接触還元剤を含む還元剤(例えば、無機、水素化銅系ナトリウム、水素化シアン系ナトリウム、パラジウム炭など)との組合せが挙げられる。

低級アルキルハライドをアルシ化剤として用いる場合、反応はアルカリ金属(例えば、ナトリウム、カリウムなど)、アルカリ土類金属(例えば、マグネシウム、カルシウムなど)、それらの水素化もしくは水酸化物もしくは炭酸塩もしくは

は炭酸水素塩などの塩基の存在下で行うことが好ましい。

反応は、通常、水、ジオキサン、アルコール（例えば、メタノール、エタノールなど）、アセトニトリル、テトラヒドロフラン、N,N-ジメチルホルムアミドまたはそれらの混合物など反応に悪影響を及ぼさない慣用の溶媒中で行われる。さらに前記アルキル化剤が炭酸の場合、これらは府媒としても用いることができる。

反応温度は特に限定されず、冷卻ないし加熱下で反応は行われる。

この反応では、 R^2 がアミノメチル基および/または R^3 がアミノ基もしくはアシルアミノ基で置換されたアリール基である化合物[1x]を原料化合物として用いる場合、 R^2 が低級アルキルアミノメチル基および/または R^3 が低級アルキルアミノ基もしくは低級アルキル（アシル）アミノ基で置換されたアリール基である化合物[1y]が反応条件によって得られることがある。これらの場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

製造法17

化合物[1-4]またはその塩は、化合物[1-3]またはその塩をアシル化剤と反応させることによって製造することができる。

この反応は、製造法14と実質的に同様に行われるので、この反応の反応様式および反応条件（例えば、府媒、反応温度など）も製造法14に示した通りでよい。

この反応において、 R^3 がアミノ基もしくは水酸基で置換されたアリール基および/または R^2 がアミノメチル基である化合物[1-3]を原料化合物として用いる場合、 R^3 がアシルアミノ基もしくはアシルオキシ基で置換されたアリール基および/または R^2 がアシルアミノメチル基である化合物[1-4]が反応条件によって得られることがある。これらの場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

製造法18

化合物[1-6]またはその塩は化合物[1-5]またはその塩をアルキル化剤と反応させることによっ

製造法16

化合物[1-2]またはその塩は化合物[1-1]またはその塩をアシル化剤と反応させることによって製造することができる。

この反応は、製造法14と実質的に同様に行うことができるので、この反応の反応様式および反応条件（例えば、府媒、反応温度など）も製造法14に示した通りでよい。

この反応では、 R^1 がアミノ基もしくは水酸基で置換されたアリール基および/または R^2 がアミノメチル基である化合物[1-1]を原料化合物として用いる場合、 R^1 がアシルアミノ基もしくはアシルオキシ基で置換されたアリール基および/または R^2 がアシルアミノメチル基である化合物[1-2]が反応条件によって得られることがある。これらの場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

て製造することができる。

この反応は、製造法15と実質的に同様に行われるので、この反応の反応様式および反応条件（例えば、府媒、反応温度など）も製造法15に示した通りである。

この反応では、 R^2 がアミノメチル基および/または R^1 がアミノ基もしくはアシルアミノ基で置換されたアリール基である化合物[1-5]を原料化合物として用いる場合、 R^2 が低級アルキルアミノメチル基および/または R^1 が低級アルキルアミノ基もしくは低級アルキル（アシル）アミノ基で置換されたアリール基である化合物[1-6]が反応条件によって得られる。これらの場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

製造法19

化合物[1-8]またはその塩は化合物[1-7]またはその塩を脱アシル化反応に付すことによって製造することができる。

この反応は、無機酸(例えば、塩酸、臭化水素酸など)および有機酸(例えば、トリフルオロ酢酸、メタンスルホン酸、トルエンスルホン酸など)の存在下で行うことが好ましい。

反応は、通常、水、アルコール(例えば、メタノール、エタノールなど)、テトラヒドロフラン、ジオキサン、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒またはそれらの混合物などの慣用の溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、冷却ないし加熱下で反応は行われる。

この反応では、 R^3 がアシルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基である化合物[1-7]を原料化合物として使用する場合、 R^3 がアミノ基もしくは低級アルキルアミノ基で置換されたアリール基である化合物[1-8]が反応条件によって得られることがある。この場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

適当なアジド化合物としては、アルカリ金属アジド(例えば、ナトリウムアジド、カリウムアジドなど)、アルカリ土類金属アジド(例えば、カルシウムアジドなど)、アジ化水素などが挙げられる。

反応は、通常、テトラヒドロフラン、ジオキサン、 N,N -ジメチルホルムアミド、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒などの慣用の溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、加温ないし加熱下で反応は行われる。

製造法22

化合物[1-12]は下記の方法によって製造することができる。

すなわち、1)化合物[V]またはその塩をまず亜硝酸化合物と反応させて、次いで2)得られた生成物をハロゲン化第一銅と反応させる。

化合物[V]の塩の適当な例としては、化合物[1]で示したものと同じものが挙げられる。

適当な亜硝酸化合物としては亜硝酸アルカリ金

製造法23

化合物[1-10]またはその塩は化合物[1-9]またはその塩を脱アシル化反応に付すことによって製造することができる。

この反応は、製造法19と実質的に同様に行われるので、この反応の反応様式および反応条件(例えば、溶媒、反応温度など)も製造法19に示した通りでよい。

この反応では、 R^1 がアシルアミノ基もしくは低級アルキル(アシル)アミノ基で置換されたアリール基である化合物[1-9]を原料化合物として用いる場合、 R^1 がアミノ基もしくは低級アルキルアミノ基で置換されたアリール基である化合物[1-10]が反応条件によって得られることがある。この場合もこの反応の範囲に含まれるものである。

製造法24

化合物[1-11]またはその塩は化合物[1a]またはその塩をアジド化合物と反応させることによって製造することができる。

基(例えば、亜硝酸ナトリウム、亜硝酸カリウムなど)、亜硝酸アルキル(例えば、亜硝酸1-ブチルなど)などが挙げられる。

適当なハロゲン化第一銅としては、塩化第一銅、臭化第一銅などが挙げられる。

第一の工程において、反応は酸(例えば、硫酸など)の存在下で行うことが好ましい。

反応は、通常、水、テトラヒドロフラン、ジオキサン、アセトニトリル、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒またはそれらの混合物などの溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、冷却ないし加温下で反応は行われる。

第二の工程において、反応はハロゲン化アルカリ金属(例えば、臭化ナトリウムなど)、および無機酸(例えば、臭化水素酸など)の存在下で行うことが好ましい。

反応は、通常、水、テトラヒドロフラン、ジオキサン、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒などの溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、加温ないし加熱下で反応は行われる。

製造法23

化合物[1a]またはその塩は化合物[1-12]またはその塩をシアニ化第一銅と反応させることにより製造することができる。

反応は、通常、ピリジン、キノリン、N,N-ジメチルホルムアミド、N-メチルピロリドン、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒などの慣用の溶媒中または溶媒を用いずに行われる。

反応温度は特に限定されず、加温ないし加熱下で反応は行われる。

製造法24

化合物[1-12]またはその塩は化合物[1-13]またはその塩をハロゲン原子と反応させることにより製造することができる。

反応は、通常、ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、その他反応に影響を及ぼさない有機溶媒などの慣用の溶媒中で行われる。

反応温度は特に限定されず、冷却ないし加温下

で反応は行われる。

製造法25

化合物[1a]またはその塩および/または化合物[1b]またはその塩は化合物[W]またはその塩を化合物[II]またはその塩と反応させることにより製造することができる。

化合物[II]または[III]の塩の適当なものとして、化合物[1]で示したものと同一ものを例示することができる。

この反応は、製造法1と實質的に同様に行われるので、この反応の反応様式および反応条件(例えば、溶媒、反応温度など)も製造法1に示した通りでよい。

前記方法で得られた化合物は、精製化、再結晶、カラムクロマトグラフィー、再析出などの慣用の方法によって単離・精製することができる。

目的化合物[1]とその塩は強い抗炎症、鎮痛、抗血栓作用を有し、ヒトあるいは動物での炎症症状、種々の疼痛、関節痛、自己免疫疾患、種々の免疫疾患、血栓症の治療および/または予防に有

用であり、特に関節・筋肉の炎症と疼痛[たとえば、慢性関節リウマチ、リウマチ性骨痛、骨関節炎、痛風性関節炎など]、炎症性皮膚症状[たとえば、日光、晒傷など]、炎症性皮膚症状[たとえば、結核など]、炎症が関与する肺疾患[たとえば、喘息、気管支炎、ハート病者病、重篤ななど]、炎症を伴う消化器症状[たとえば、アフラク性潰瘍、クローン病、腸癌性胃炎、変形性胃炎、虚痛性大腸炎、小児腸炎、腸炎性回腸炎、過敏性腸症候群など]、歯肉炎、歯根または外傷後の炎症、疼痛、腫脹、発熱、炎症に伴う疼痛などの症状、特にリポキシゲナーゼ、シクロオキシゲナーゼ産物が因子であるもの、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性関節炎、結節性動脈周囲炎、リウマチ熱、シェーグレン症候群、パーチエット病、甲状腺炎、1型糖尿病、ネフローゼ症候群、再生不良性貧血、重症筋無力症、ブドウ膜炎、損傷性皮膚炎、乾癬、川崎病、サルコイドーシス、ホジキン病などの治療および/予防剤として有用である。さらに、目的化合物は高血

管または高脂血症が原因となる疾患、および循環器系疾患または脳血管疾患の治療薬および/または予防薬として有用であることが期待される。

目的化合物[1]の有用性を説明するために化合物[1]の薬理試験データを以下に示す。

[A] 抗炎症作用

ラットのアジュバント関節炎に対する作用:

(i) 試験方法:

1群10匹の雄性スプラグ・ドリー系ラットを用いた。ヒト結核菌(青山3株)0.5mgを運動バクテリン0.05mlに懸濁し右後肢足に皮下注射した。マイコバクテリアアジュバントの注射によって局所の炎症性変化(一次病変)が生じ、約10日後に、注射をした足および注射をしなかった足の両方に二次病変が生じた。アジュバントの注射前後の足容積の差が関節炎の指標であった。薬物は1日目から1日1回、連続23日間経口投与した。

(以下空白)

(I) 試験結果:

試験化合物 (実施例番号)	投与量 (mg/kg)	二次病変(注射を しない方の足) 拘縮率(%)
6	10	95.6
11-5)	10	100
15-6)	3.2	94.3
17-1)	3.2	80.6
24	3.2	87.4
33-2)	3.2	87.1
36	3.2	84.2
37-2)	3.2	81.7
45-8)	3.2	80.8
イブプロフェン	10	24.7

(B) 鎮痛作用:

ラットでのビール酵母による炎症性疼痛過敏:

(i) 試験方法:

1群10匹の雄性スプラグ・ドリー系ラットを用いた。0.5%メチルセルロースに懸濁した5%ビール酵母0.1mlを右後足に注射した。酵母を注射後3時間に足に加圧し、ラットが足をひっこめた時の圧力を読んで疼痛閾値を測定した。

酵母注射後2時間目に薬物を経口投与した。投与動物の疼痛閾値を対照動物と比較した。

(i) 試験結果:

試験化合物 (実施例番号)	投与量 (mg/kg)	効力比 (対照=1.0)
6	32	1.34
11-5)	32	1.35
24	10	1.44

(C) 抗リウマチ作用:

マウスにおけるコラーゲン誘起性関節炎に対する作用:

(i) 試験方法:

1群8匹の雄性DBA/1マウスを用いた。Ⅱ型ウシコラーゲンを0.1M酢酸に可溶化し、フロイントの完全アジュバント(CFA)に乳化した。CFA中のⅡ型コラーゲン0.2mgをマウスの尾根部に皮下内投与した。21日後に同じ方法で再投与した。投与後10日目から薬物を1日1回、3週間経口投与し、関節炎の肉眼的徴候を週1回観察した。関節炎指数を用いて旅症状を0-3に段階づけし、関節腫脹と紅斑(段階1)、目に見える関節障害(段階2)、壊出する関節腫脹(段階3)とした。

(以下余白)

(i) 試験結果:

試験化合物 (実施例番号)	投与量 (mg/kg)	関節炎指数 拘縮率(%)
6	10	78.6
11-5)	10	91.7
15-6)	10	98.9
24	10	90.8
33-2)	10	92.4
45-8)	10	88.5

(D) 抗血栓作用:

コラーゲン誘発性血小板凝集に対する作用:

(i) 試験方法:

3×10^8 /mlの血小板を含む多血小板血漿(PRP)を人血から作った。PRP245μlに濃縮 5μ を加

え、37℃で2分間攪拌した。この溶液に凝集剤発剤としてコラーゲン(0.5mg/ml)5mlを加えた。凝集剤(HKX HEHA-TRACER 1)を用いて凝集を測定した。抑制剤(試験化合物)の活性を IC_{50} 値、すなわち血小板凝集反応を50%抑制するのに必要な投与量として表わした。

高液⁸…試験化合物をジメチルスルホキシドに溶解した。

(1) 試験結果:

試験化合物 (実施例番号)	IC_{50} (M)
8	5.3×10^{-6}

[E] ウレミ型コラーゲンに対する凝集阻害作用
(DTH) 反応への作用

(1) 試験方法:

本試験には7匹の雄性DBA/1マウスを用いた。ヒト結核菌株H37Rv(和光純薬工業株式会社、大阪、日本)を含むフロイントの完全アジュ

バントに乳化したII型コラーゲン125mgを尾根部に投与しマウスを感作した。2週間後にリン酸緩衝食塩液(PBS)中のII型コラーゲン2.5mg/mlの0.04mlの懸濁液を右後足の足底部に注射し、0.04mlのPBSを左後足に注射して対照とした。腫瘍発24時間後に両後足の腫瘍を巻尺計(直野HK-550)で測定した。

感作から依日を除いて連日、腫瘍を巻尺計で測定した。

データは各試験の腫瘍対照と比較した増殖率(%)で表わした。

(1) 試験結果:

試験化合物 (実施例番号) \ 投与量 (mg/尾)	0.32	1.0	3.2
8	53.4	61.5	74.3
15-21	55.4	70.0	69.6
26	45.9	66.9	75.7

治療目的に投与する場合、この発明の化合物[1]およびその塩の一つを有効成分として、これを医薬として許容される剤形、例えば錠剤、非経口および外用に適した有膜または無膜の固形ないし液状賦形剤と配合した医薬組成物の形で投与する。これらの医薬組成物はカプセル剤、錠剤、顆粒剤、散粒剤、吸入剤、坐剤、液剤、懸濁剤、乳剤などの形をとることができる。必要な場合、これらの製剤に助剤、安定剤、凝固剤または乳化剤、緩衝剤、その他慣用の添加剤を加えることができる。

化合物[1]の投与量は、患者の年齢、症状に応じて増減することができるが、平均一回量として約0.1mg、1mg、10mg、50mg、100mg、250mg、500mg、または1000mgが前記諸疾患の治療目的に有効な量と考えられる。一般に、一人当たり日量として0.1mg/体重ないし1000mg/体重を投与することができる。

下記の製造例および実施例によりこの発明をさらに詳細に説明する。

製造例1

4-(メチルチオ)アセトフェノン(1g)と水素化ナトリウム(60%, 288mg)のN,N-ジメチルホルムアミド(7ml)中混合物を室温で30分間攪拌する。混合物を0℃に冷却し、シュウ酸ジエチル(0.98ml)を滴下する。得られた混合物を室温で3時間攪拌し、水水に注ぎ、希塩酸で酸性とする。析出物を濾過し、水洗後、真空乾燥して、エナル 4-[4-(メチルチオ)フェニル]-2,4-ジオキソプロパノエート(1.6g)を淡黄色粉末として得る。

融点: 91-97℃

IR (KBr): 3420, 1735, 1620, 1595,

1615 cm^{-1}

1H NMR (DMSO- d_6 , δ): 1.29 (3H, t, J=7Hz), 2.54 (3H, s), 4.25 (2H, q, J=7Hz), 6.78 (1H, s), 7.55 (2H, d, J=8.5Hz), 7.91 (2H, d, J=8.5Hz)

Mass (m/z): 288 (M^+), 193

製造例1と同様にして下記の化合物(製造例2

-1)から2-7))を得る。

製造例2

- 1) 1-[4-(メタルオ)フェニル]-4,4'-トリフルオロブタン-1,3-ジオン

融点: 79-83°C

IR (Nujol): 1590 (C=O), 1490 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.57 (3H, s), 7.0 (1H, s),

7.42 (2H, d, J=8.6Hz), 6.06 (2H, d,

J=8.6Hz)

Mass (m/z): 262 (H^+)

- 2) エタル 4-[5-(メタルオ)-2-エタニル]-2,4-ジオキソブタン-2-エート

融点: 33-45°C

IR (Nujol): 1750, 1620, 1560, 1510 cm^{-1}

NMR (CDCl₃, δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 2.64

(3H, s), 4.38 (2H, q, J=7Hz), 6.84 (1H, s),

6.95 (1H, d, J=4Hz), 7.27 (1H, s), 7.03

(1H, d, J=4Hz)

Mass (m/z): 272 (H^+)

- 3) エタル 4-[4-(ホルミルアミノ)フェ

ニル), 7.74 (2H, s)

- 6) 4-フルオロ-1-[4-(メタルオ)フェニル]ブタン-1,3-ジオン

融点: 64-68°C

IR (Nujol): 1675, 1595, 1550 cm^{-1}

NMR (CDCl₃, δ): 2.49 (3H, s), 4.35 (1H, s),

5.11 (1H, s), 6.38 (1H, d, J=3Hz), 7.17

(2H, d, J=9Hz), 7.74 (2H, d, J=9Hz)

- 7) 4,4'-ジフルオロ-1-[4-(メタルオ)フェニル]ブタン-1,3-ジオン

IR (Nujol): 1640, 1595 cm^{-1}

Mass (m/z): 244 (H^+)

製造例3

ジエチルシアノメタルホスホネート (5.3g) のテトラヒドロフラン (10ml) 溶液を氷冷した水溶性ナトリウム (60%, 1.3g) とテトラヒドロフラン (40ml) の混合物に滴下する。混合物を5°Cで15分間攪拌する。この混合物に4-(メタルオ)ベンズアルデヒド (5g) のテトラヒドロフラン (10ml) 溶液を5-10°Cで加える。混合

ニル]-2,4-ジオキソブタン-2-エート

融点: 171-174°C (分解)

IR (Nujol): 3300, 1730, 1700, 1600,

1525 cm^{-1}

Mass (m/z): 263 (H^+)

- 4) エタル 4-(4-アセチルフェニル)-2,4-ジオキソブタン-2-エート

IR (Nujol): 1725, 1690, 1600 cm^{-1}

NMR (CDCl₃, δ): 1.43 (3H, t, J=7Hz), 2.67

(3H, s), 4.42 (2H, q, J=7Hz), 7.11 (1H, s),

8.0-8.2 (4H, m), 15.13 (1H, s)

Mass (m/z): 262 (H^+)

- 5) エタル 4-[3,5-ジ(ヒドロキシル)フェニル]-2,4-ジオキソブタン-2-エート

融点: 128-131°C

IR (Nujol): 3000, 1730, 1630, 1595 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 1.35 (3H, t, J=7Hz), 1.43

(1H, s), 4.32 (2H, q, J=7Hz), 6.99 (1H,

を室温で6時間攪拌し、酢酸エタルで希釈後、水洗する。有機層を乾燥し、減圧濃縮する。残量を少量のエタノールで洗浄し、乾燥して、3-[4-(メタルオ)フェニル]アクリロニトリル (4.7g) を淡黄色結晶として得る。

IR (Nujol): 2220, 1615, 1590, 1490 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.61 (3H, s), 6.40 (1H,

d, J=16.7Hz), 7.2-7.7 (5H, m)

Mass (m/z): 175 (H^+)

製造例4

4-フルオロフェニルヒドロキシ酢酸塩 (4g) をナトリウム (1.15g) のエタノール (80ml) 溶液に加え、混合物を1時間攪拌する。冷却した混合物に3-[4-(メタルオ)フェニル]アクリロニトリル (4.3g) を加え、一夜置成する。酢酸エタルと水を加え、有機層を分離し、乾燥、濃縮する。結晶残渣 (7.6g) をシリカゲル (76g) カラムクロマトグラフィーに付し、トルエンと酢酸エタルの混合溶媒 (2:1) で溶出して、4,5-ジヒドロ-1-(4-フル

オロフェニル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール-3-アミン(5g)を淡褐色結晶として得る。

融点: 100-110°C

Mass (m/z): 301 (H⁺)

製造例5

4,5-ジヒドロ-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール-3-アミン(1g)と酸化マンガン(IV)(1.16g)のジクロロメタン(100ml)中混合物を室温で2時間攪拌する。不溶物を濾去し、濾液を濃縮乾固する。残渣(1g)をシリカゲル(16g)カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムと酢酸エタールの混合溶媒(5:1)で溶出し、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール-3-アミン(0.64g)を淡褐色結晶として得る。

IR (Nujol): 3400, 1600, 1565, 1515 cm⁻¹

NMR (DMSO-d₆, δ): 2.46 (3H, s), 4.97 (2H, s), 5.82 (1H, s), 7.0-7.3 (8H, m)

フロフラン(80ml)溶液を加える。混合物を40°Cで1時間、還流下で1時間攪拌する。これに水とクロロホルムを加え、有機層を水洗し、乾燥後、減圧濃縮する。残渣をメタノールで洗浄して、1-[4-(メタルオ)フェニル]-3,3-ビス(メタルオ)-2-プロペン-1-オン(10.5g)を結晶として得る。

融点: 119-122°C

IR (Nujol): 1620, 1590, 1580, 1495 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ): 2.52 (3H, s), 2.53 (3H, s),

2.58 (3H, s), 6.74 (1H, s), 7.26 (2H, d,

J=7Hz), 7.83 (2H, d, J=7Hz)

Mass (m/z): 270 (H⁺)

製造例8

エタール 4-(4-トリル)-2,4-ジオキサソプタノエート(4.7g)と4-フルオロフェニルヒドランジ酸塩(3.6g)のジオキサン(35ml)-エタノール(35ml)中混合物を5時間還流する。混合物を濃縮し、濾液を減圧濃縮する。油状残渣(8g)をシリカゲル(130g)カラムク

Mass (m/z): 299 (H⁺)

製造例9

亜硝酸ナトリウム(3.6g)の水(18ml)溶液を含む水浴で冷却した4-フルオロ-2-ニトロアニリン(7g)の濃塩酸(45ml)溶液に30分間かけて滴下する。混合物を0°Cで30分間攪拌する。次いで混合物に塩化第一低2水和物(28.8g)の濃塩酸(24ml)溶液を5°C以下で1時間かけて滴下する。析出物を濾取し、エタールで洗浄して、4-フルオロ-2-ニトロフェニルヒドランジ酸塩(4.4g)を結晶物として得る。

融点: >260°C

Mass (m/z): 171 (H⁺)

製造例7

二酸化炭素(4.6g)のテトラヒドロフラン(80ml)溶液を4-(メタルオ)アセトフェノン(10g)と80%水素化ナトリウム(4.8g)のテトラヒドロフラン(100ml)中混合物に室温で1時間かけて滴下する。混合物を40°Cで2時間攪拌し、これにヨードメタン(1.71g)のテトラヒ

ドロマトグラフィーに付し、クロロホルムで溶出して、1-(4-フルオロフェニル)-5-(4-トリル)ピラゾール-3-カルボン酸エタールエステル(2.7g)を油状物として得る。

IR (薄膜): 1720, 1610, 1510 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 2.31

(3H, s), 4.40 (2H, q, J=7Hz), 6.6-7.4

(8H, m)

製造例6と同様にして下記の化合物(製造例9-1)から9-3)を得る。

製造例9

1) 1-(4-フルオロフェニル)-5-(4-メトキシフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸エタールエステル

融点: 91-93°C

IR (Nujol): 1715, 1610, 1510 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ): 1.36 (3H, t, J=7Hz), 3.61

(3H, s), 4.45 (2H, q, J=7Hz), 6.6-7.4 (8H,

m)

Mass (m/z): 340 (H⁺)

2) 1,5-ビス(4-メトキシフェニル)ビタ
ゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄板): 1730, 1610, 1510 cm^{-1}

3) 5-(4-シアノフェニル)-1-(4-フル
オロフェニル)ビタゾール-3-カルボン酸エ
チルエステル

融点: 147-148°C

IR (KBr): 2230, 1735, 1610, 1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 1.43 (3H, t, J=7Hz), 4.46
(2H, q, J=7Hz), 7.0-7.8 (9H, m)

Mass (m/z): 336 (M^+)

製造例10

1-(4-フルオロフェニル)-5-(4-トリ
ル)ビタゾール-3-カルボン酸エチルエステ
ル(2.7g)と水酸化カリウム(1.1g)のメタ
ノール(40ml)中混合物を30分間還流する。溶液
を留去し、残渣を水に溶解し、酢酸エチルで洗浄
する。水層を希塩酸で酸性とし、酢酸エチルで抽
出する。抽出物を水洗し、乾燥、濃縮して、1-
(4-フルオロフェニル)-5-(4-トリル)

融点: 100-104°C

IR (KBr): 1730, 1600, 1515 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 1.29 (3H, t, J=7Hz), 2.61
(3H, s), 4.27 (2H, q, J=7Hz), 7.1-7.9
(9H, m)

Mass (m/z): 356 (M^+)

さらに、同じ溶液で抽出した第二の部分を減圧
濃縮して、1-(4-フルオロフェニル)-5-
[4-(メチルサオ)フェニル]ビタゾール-3-
カルボン酸エチルエステル(1.1g)を淡褐色
の結晶として得る。

融点: 100-102°C

IR (KBr): 1710, 1600, 1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 2.48
(3H, s), 4.45 (2H, q, J=7Hz), 7.0-7.4
(9H, m)

Mass (m/z): 356 (M^+)

実施例2

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メ
チルサオ)フェニル]ビタゾール-3-カルボ

ン酸エチルエステル(2.1g)を結晶と
して得る。

融点: 170-173°C

IR (KBr): 2760, 2600, 1690, 1600,

1510 cm^{-1}

Mass (m/z): 296 (M^+)

実施例3

エチル 4-[4-(メチルサオ)フェニル]
-2,4-ジオキソソブチレート(1g)と4-
フルオロフェニルヒドラジン塩酸塩(0.57g)の
エタノール(10ml)およびジオキサン(10ml)中
混合物を5時間還流する。溶液を留去し、残渣を
クロロホルムに溶解し、水洗する。有機層を硫酸
マグネシウムで乾燥後、濃縮する。残渣(1.6
g)をシリカゲル(30g)カラムクロマトグラ
フィーに付し、トルエンと酢酸エチルの混合溶液
(20:1)で溶出して、1-(4-フルオロフェ
ニル)-3-[4-(メチルサオ)フェニル]ビ
タゾール-5-カルボン酸エチルエステル(0.11
g)を得る。

ン酸エチルエステル(0.95g)と30%過酸化水素
溶液(0.79ml)の酢酸(9.5ml)溶液を70°Cで3
時間攪拌する。混合物を氷水中で冷却し、析出
物を濾過し、エタノールで洗浄して、1-(4-
フルオロフェニル)-5-[4-(メチルサオ)フェ
ニル]ビタゾール-3-カルボン酸エ
チルエステル(0.94g)を無色結晶として得る。

融点: 210-212°C

IR (KBr): 1715, 1600, 1515 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 1.32 (3H, t, J=7Hz), 3.25
(3H, s), 4.35 (2H, q, J=7Hz), 7.3-7.5 (7H,
m), 7.92 (2H, d, J=8.5Hz)

Mass (m/z): 338 (M^+)

実施例3

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(
メチルサオ)フェニル]ビタゾール-3-
カルボン酸エチルエステル(4.4g)と4N水
酸化ナトリウム(5.7ml)のテトラヒドロフラン
(20ml)、エタノール(10ml)およびジオキサン
(20ml)中混合物を室温で一晩攪拌する。水(50

酸)を加え、混合物を塩酸で酸性とする。析出物を濾過し、水洗して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボン酸(4.1g)を無色結晶として得る。

融点: 232-234°C

IR (KBr): 1695, 1600, 1510 cm^{-1}

¹HMR (DMSO-d₆, δ): 3.25 (3H, s), 7.2-7.5

(7H, m), 7.92 (2H, d, J=8.3Hz), 13.1

(1H, s)

Mass (m/z): 360 (M⁺)

実施例4

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボン酸(1.1g)と五塩化燐(0.67g)のトルエン(10ml)とテトラヒドロフラン(9ml)中混合物を塩酸で2時間攪拌する。不溶物を濾過し、濾液を濃縮して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボニルクロリド(1.37

g)を油状物として得る。

IR (薄膜): 1760, 1605, 1510 cm^{-1}

25%メチルアミン水溶液(2ml)、水(5ml)およびテトラヒドロフラン(10ml)の混合物を上記酸塩化物に加える。混合物を一晩攪拌する。析出物を濾過し、濾液を酢酸エチルで抽出する。抽出物を水洗後、乾燥、濃縮する。残渣(0.21g)と析出物(0.83g)を合わせ、酢酸エチルとエタノールの混合物から再結晶して、1-(4-フルオロフェニル)-N-メチル-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボキサミド(1.0g)を無色結晶として得る。

融点: 271-273°C

IR (KBr): 3400, 1660, 1605, 1550, 1510 cm^{-1}

¹HMR (DMSO-d₆, δ): 2.78 (3H, d, J=4.6Hz),

3.25 (3H, s), 7.16 (1H, s), 7.3-7.6 (6H,

m), 7.91 (2H, d, J=8.3Hz), 8.35 (1H, q,

J=4.6Hz)

m), 5.27 (3H, s), 7.3-8.3 (9H, m)

Mass (m/z): 387 (M⁺)

3) 1-(4-フルオロフェニル)-3-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-5-カルボキサミド

融点: 270-271°C

IR (KBr): 3360, 3200, 1670, 1625, 1605, 1510 cm^{-1}

¹HMR (DMSO-d₆, δ): 3.26 (3H, s), 7.2-8.2

(11H, m)

Mass (m/z): 359 (M⁺)

4) 5-[3,5-ジ(4-ヒドロキシフェニル)-1-(4-フルオロフェニル)ビラゾール-3-カルボキサミド

融点: 247-249°C

IR (KBr): 3650, 3500, 3350, 1600,

1510 cm^{-1}

¹HMR (DMSO-d₆, δ): 1.26 (18H, s), 8.98 (3H,

m), 7.2-7.7 (6H, m)

Mass (m/z): 409 (M⁺)

Mass (m/z): 373 (M⁺)

実施例4と同様にして下記の化合物(実施例5-1)から(5-12))を得る。

実施例5

1) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボキサミド

融点: 215-217°C

IR (KBr): 3470, 3200, 1680, 1600,

1515 cm^{-1}

¹HMR (DMSO-d₆, δ): 3.25 (3H, s), 7.16 (1H,

m), 7.2-7.6 (7H, m), 7.77 (1H, s), 7.91

(2H, d, J=8.5Hz)

Mass (m/z): 359 (M⁺), 341

2) 1-(4-フルオロフェニル)-N,N-ジメチル-3-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-5-カルボキサミド

融点: 192-193°C

IR (KBr): 1640, 1605, 1510 cm^{-1}

¹HMR (DMSO-d₆, δ): 2.95 (3H, s), 2.96 (3H,

6) N-フェニル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 200-208°C(分解)

IR (KBr): 3400, 1680, 1595, 1530,
1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (DMSO- d_6 , δ): 2.46 (3H, s), 7.0-7.8

(12H, m), 7.85 (2H, d, J=8Hz), 10.10

(1H, s)

Mass (m/z): 409 (H^+)

8) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]-3-(1-ピロリジニルカルボニル)ピラゾール

融点: 139-140°C

IR (KBr): 1615, 1515 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 1.8-2.1 (4H, m), 2.40

(3H, s), 3.70 (2H, t, J=8Hz), 3.90 (2H, t,

J=8Hz), 6.9-7.4 (9H, m)

Mass (m/z): 361 (H^+)

ル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 165-168°C(分解)

IR (KBr): 1650, 1605, 1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 3.09 (3H, s), 3.86 (3H, s),

7.0-7.5 (7H, m), 7.91 (2H, d, J=8Hz)

Mass (m/z): 389 (H^+)

10) N-[1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]-5-ピラゾリルカルボニル]グリシン

融点: 258-260°C(分解)

IR (KBr): 3420, 1720, 1645, 1580,

1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (DMSO- d_6 , δ): 3.25 (3H, s), 3.89 (2H, d,

J=6Hz), 7.20 (1H, s), 7.3-7.6 (6H, m),

7.92 (2H, d, J=8Hz), 8.50 (1H, t, J=5Hz)

Mass (m/z): 417 (H^+)

11) N-メタル-1-[4-(N-ホルミルメタルアミノ)フェニル]-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

7) N-シクロプロピル-1-(4-フルオロフェニル)-8-[4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 147-148°C

IR (KBr): 3360, 1675, 1600, 1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 0.8-0.9 (4H, m), 2.48 (3H,

s), 2.8-3.0 (1H, m), 7.0-7.4 (9H, m)

Mass (m/z): 367 (H^+)

8) 1-(4-フルオロフェニル)-3-(4-メタル-1-ピペラジニルカルボニル)-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール

融点: 170-173°C

IR (KBr): 1620, 1620, 1500 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 2.34 (3H, s), 2.4-2.6 (4H,

m), 3.08 (3H, s), 3.8-4.2 (4H, m), 5.8-

7.5 (7H, m), 7.91 (2H, d, J=8Hz)

Mass (m/z): 442 (H^+)

9) N-ヒドロキシ-N-メタル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスホニル

IR (KBr): 3350, 1660, 1605, 1550,

1515 cm^{-1}

Mass (m/z): 412 (H^+)

12) N-N-ジメタル-1-[4-(N-ホルミルメタルアミノ)フェニル]-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 426 (H^+)

実施例 6

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド (2.7g) と塩化メチルスホニル (3.4ml) のピラジン (25ml) 中混合物を 50°C で 8 時間攪拌する。溶液を留し、酢酸エタールと水を残液に加える。析出物を濾過し、水および酢酸エタールで洗浄する。濾液を分離し、有機層を希塩酸で洗浄し、乾燥後、濃縮乾燥する。残渣と先に得た析出物を合わせ、エタノールと酢酸エタールの混合物から再結晶して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスホニル)

フェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル(2.4 g)を無色結晶として得る。

融点: 194-196°C

IR (KBr): 2240, 1600, 1515 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.26 (3H, s), 7.3-7.8

(7H, m), 7.98 (2H, d, J=0.7Hz)

Mass (m/z): 241 (H^+)

実施例 7と同様に下記化合物(実施例 7-1)から 7-4)を得る。

実施例 7

1) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

IR (KBr): 3500, 1695, 1600, 1515 cm^{-1}

2) 1-(4-フルオロフェニル)-3-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-5-カルボン酸

融点: 259-260°C (分解)

IR (KBr): 1705, 1605, 1515 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.26 (3H, s), 7.3-8.3

中間化合物を1時間還流する。塩酸ジメチルアミン(1.04 g)と炭酸カリウム(1.33 g)を加え、混合物を3時間攪拌還流する。混合物を酢酸エチルで希釈し、水、炭酸水素ナトリウム水溶液、希塩酸、水で順次洗浄後、乾燥、濃縮して、1-(4-フルオロフェニル)-N,N-ジメチル-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド(2.5 g)を淡褐色油状物として得る。

IR (薄膜): 1620, 1510 cm^{-1}

実施例 8

1-(4-フルオロフェニル)-N,N-ジメチル-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド(1 g)とm-クロロ安息香酸(1.8 g)のジクロロメタン(17 ml)中間化合物を一夜室温で攪拌する。不溶物を濾過し、濾液を炭酸水素ナトリウム水溶液で洗浄し、乾燥後、濃縮乾固する。残留する油状物(1.4 g)をシリカゲル(30 g)カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムとメタノールの

(9H, m)

Mass (m/z): 360 (H^+)

3) 5-[3,5-ジ(4-ピブチル)-4-ヒドロキシフェニル]-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 239-242°C

IR (KBr): 3550, 1690, 1510 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 1.25 (18H, s), 6.96 (2H, s), 7.03 (1H, s), 7.25-7.45 (4H, m)

Mass (m/z): 410 (H^+), 395

4) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

IR (KBr): 1720, 1655, 1605, 1520 cm^{-1}

Mass (m/z): 399 (H^+)

実施例 9

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸(5 g)と1,1'-カルボニルジイミダゾール(1.6 g)のテトラヒドロフラン(39 ml)

混合物を(20:1)で抽出する。得られた油状物(1.0 g)をエーテルから結晶化して、N,N-ジメチル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド(0.69 g)を無色結晶として得る。

融点: 171-173°C

IR (KBr): 1620, 1510 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.02 (3H, s), 3.25 (3H, s), 3.32 (3H, s), 7.08 (1H, s), 7.2-8.0

(8H, m)

Mass (m/z): 387 (H^+)

実施例 10

1-(4-フルオロフェニル)-N,N-ジメチル-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド(1.6 g)と水素化アルミニウムリチウム(0.34 g)のエーテル(8.5 ml)およびベンゼン(13 ml)中間化合物を2時間攪拌還流する。混合物に4 N水酸化ナトリウム(10 ml)を滴下し、次いで酢酸エチル(20 ml)

を加える。不溶物を濾過し、濾液を分離する。有機層を水洗し、乾燥、濃縮する。残液(1.2g)をシリカゲル(30g)カラムクロマトグラフィーに付し、酢酸エチルとメタノールの混合溶媒(5:1)で溶出して、3-(N,N-ジメチルアミノメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール(0.69g)を淡褐色結晶物として得る。

IR(薄膜): 2920, 2770, 1600, 1560,

1510 cm^{-1}

$NMR(\text{m/z}): 341(\text{H}^+)$, 298

実施例9と同様に下記化合物(実施例11-1)から11-3)を得る。

実施例11

1) 3-(N,N-ジメチルアミノメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール塩酸塩

融点: 157-180°C(分解)

IR(ν_{max}): 3350, 2580, 1600, 1510 cm^{-1}

$NMR(\text{DMSO}-d_6, \delta): 3.25(3\text{H}, \text{s})$, 3.54(6H,

$\text{s})$, 4.99(2H, s), 7.07(1H, s), 7.2-8.0

(8H, m), 12.9(1H, s)

$NMR(\text{m/z}): 373(\text{H}^+)$, 330

2) 1-(4-フルオロフェニル)-3-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-5-カルボン酸エチルエステル

融点: 203-205°C

IR(ν_{max}): 1725, 1605, 1515 cm^{-1}

$NMR(\text{DMSO}-d_6, \delta): 1.21(3\text{H}, \text{t}, J=7\text{Hz})$, 3.27

(3H, s), 4.23(2H, q, $J=7\text{Hz}$), 7.3-8.3

(9H, m)

$NMR(\text{m/z}): 368(\text{H}^+)$

3) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

融点: 210-212°C

IR(ν_{max}): 3160, 1605, 1520, 1505 cm^{-1}

$NMR(\text{DMSO}-d_6, \delta): 3.26(3\text{H}, \text{s})$, 7.3-7.6

(7H, m), 7.96(2H, d, $J=8.3\text{Hz}$)

$NMR(\text{m/z}): 364(\text{H}^+)$

実施例12

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸(8.4g)と塩化チオニル(30ml)のテトラヒドロフラン(80ml)中混合物を1時間濃縮後、減圧濃縮して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボンクロリドを得る。

マロン酸ジエチル(3.46g)とエタノール(1.96ml)のエーテル(19.6ml)溶液をマグネシウム(518mg)、エタノール(0.785ml)および四塩化炭素(1.18ml)のエーテル(19.6ml)中混合物に窒素雰囲気下で滴下する。得られた混合物を室温で100分間攪拌し、25分間濃縮する。上記塩化化合物のテトラヒドロフラン(24ml)溶液をこの混合物に少量づつ加える。混合物を室温で85分間攪拌後、70分間濃縮する。反応混合物を10%硫酸(150ml)に注ぎ、酢酸エチルで抽出する。抽出物を水洗後、硫酸マグネシウムで乾燥する。母液を減圧留去して、3-ビス(エタキシルボ

ニル)アセチル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾールを得る。

硫酸(3.9ml)、酢酸(23.6ml)および水(19.6ml)の混合物を3-ビス(エタキシルボニル)アセチル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾールに加える。混合物を5時間濃縮し、濃縮する。残液を酢酸エチルに溶解し、溶液を水洗後、乾燥、濃縮する。残液をシリカゲル(150g)カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムと酢酸エチルの混合溶媒(3:1)で溶出して、3-アセチル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール(4.2g)を淡褐色結晶物として得る。

融点: 207-209°C

IR(ν_{max}): 1690, 1600, 1515 cm^{-1}

$NMR(\text{DMSO}-d_6, \delta): 2.57(3\text{H}, \text{s})$, 3.25(3H,

$\text{s})$, 7.2-8.0(9H, m)

$NMR(\text{m/z}): 366(\text{H}^+)$

実施例13

3-アセチル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール(1.1g)、硝酸バリウム(II)3水和物(1.6g)と過塩素酸(70%, 3.3ml)のメタノール(15ml)およびジオキサン(8ml)中混合物を室温で一夜攪拌する。不溶物を濾過し、濾液をクロロホルムで希釈し、水洗後、乾燥、濃縮する。残液(1.8g)をシリカゲル(100g)カラムクロマトグラフィーに付し、トルエンと酢酸エタールの混合溶媒(2:1)で溶出して、1-(4-フルオロフェニル)-3-(メトキシアセチル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール(0.13g)を淡黄色結晶として得る。

融点: 151-154°C

IR (KBr): 1705, 1600, 1610 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.25 (3H, s), 3.39 (3H, s), 4.61 (2H, s), 7.2-8.0 (9H, m)

実施例1と同様にして下記の化合物(実施例14-1)から(14-26)を得る。

ルニステル

IR (薄膜): 1725, 1600, 1510 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.39 (3H, t, J=7Hz), 2.42 (3H, s), 4.42 (2H, q, J=7Hz), 6.9-7.6 (9H, m)

4) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1720, 1605, 1515 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.40 (3H, t, J=7Hz), 2.42 (3H, s), 4.43 (2H, q, J=7Hz), 6.7-7.8 (8H, m)

5) 1-(3-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1720, 1605, 1490 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 2.44 (3H, s), 4.42 (2H, q, J=7Hz), 6.9-7.5 (9H, m)

6) 5-[4-(メチルチオ)フェニル]-1-

実施例14

1) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

IR (薄膜): 1605, 1515, 1500 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 2.48 (3H, s), 6.72 (1H, s), 7.0-7.4 (8H, m)

Mass (m/z): 352 (H^+)

2) 5-[4-(メチルチオ)フェニル]-1-(4-ピリジル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル塩酸塩

融点: 181-186°C

IR (KBr): 1720, 1650, 1600, 1510 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 1.34 (3H, t, J=7Hz), 2.51 (3H, s), 4.37 (2H, q, J=7Hz), 7.21 (1H, s), 7.33 (4H, m), 7.72 (2H, d, J=5Hz), 8.85 (2H, d, J=5Hz)

Mass (m/z): 339 (H^+)

3) 1-(2-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]-3-カルボン酸エチル

フェニルピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1705, 1600, 1660, 1500 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.40 (3H, t, J=7Hz), 2.45 (3H, s), 4.42 (2H, q, J=7Hz), 6.9-7.5 (10H, m)

7) 1-(4-メチルフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1720, 1605, 1510 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 2.47 (3H, s), 3.86 (3H, s), 4.45 (2H, q, J=7Hz), 6.8-7.4 (9H, m)

8) 1-(4-メチルフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1720, 1605, 1520 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 2.37 (3H, s), 2.47 (3H, s), 4.45 (2H, q, J=7Hz), 7.00 (1H, s), 7.0-7.4 (8H, m)

9) 5-(4-フルオロフェニル)-1-[4-(メタルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 95-96.5°C

IR (KBr): 1710, 1610, 1545, 1495 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 2.49

(3H, s), 4.45 (2H, q, J=7Hz), 6.9-7.3

(9H, m)

Mass (m/z): 358 (H^+)

10) 5-[4-(メタルチオ)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 157-159°C

IR (KBr): 1695, 1655, 1590, 1510 cm^{-1}

Mass (m/z): 353 (H^+)

11) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[5-(メタルチオ)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1720, 1600, 1510 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.39 (3H, t, J=7Hz), 2.44

(9H, m)

Mass (m/z): 351 (H^+)

15) 5-(4-メトキシフェニル)-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 161-162°C

IR (KBr): 1710, 1615, 1595, 1525,

1500 cm^{-1}

Mass (m/z): 367 (H^+)

16) 5-(4-アセチルフェニル)-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 220-222°C

IR (KBr): 1710, 1610, 1510 cm^{-1}

Mass (m/z): 352 (H^+)

17) 5-[3,5-ジ(4-ブチル)-4-ヒドロキシフェニル]-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 173-174°C

IR (KBr): 3550, 1730, 1605, 1510 cm^{-1}

(3H, s), 4.42 (2H, q, J=7Hz), 6.6-7.4

(7H, m)

12) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 184-186°C

IR (KBr): 3300, 1730, 1720, 1690, 1600,

1510 cm^{-1}

Mass (m/z): 353 (H^+)

13) 5-[5-(メタルチオ)-2-チエニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1725, 1600, 1525, 1500 cm^{-1}

14) 1-(4-ニトロフェニル)-5-(4-トリル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 147-149°C

IR (KBr): 1715, 1595, 1525, 1500 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.43 (3H, t, J=7Hz), 2.39

(3H, s), 4.43 (2H, q, J=7Hz), 6.9-8.3

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 1.25 (18H, s), 1.31 (3H,

t, J=8Hz), 4.32 (2H, q, J=8Hz), 6.96 (2H,

s), 7.08 (1H, s), 7.2-7.5 (4H, m)

Mass (m/z): 438 (H^+)

18) 1-(2,5-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メタルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 81-84°C

IR (KBr): 1730, 1600, 1510 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.43 (3H, t, J=7Hz), 2.47

(3H, s), 4.46 (2H, q, J=7Hz), 7.0-7.4

(8H, m)

Mass (m/z): 376 (H^+)

19) 5-[4-(メタルチオ)フェニル]-1-(2-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 155-157°C

IR (KBr): 1715, 1605, 1535 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.41 (3H, t, J=7Hz), 2.45

(3H, s), 4.44 (2H, q, J=7Hz), 7.0-8.1

(9H.m)

Mass (m/z) : 383 (M⁺)

20) 1 - (4-フルオロ-2-ニトロフェニル)
- 3 - [4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール
- 3 - カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜) : 1725, 1590, 1545, 1510 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ) : 1.41 (3H.t.J=7Hz), 2.48

(3H.s), 4.36 (2H.q.J=7Hz), 6.9-8.0

(8H.m)

Mass (m/z) : 401 (M⁺)

21) 5 - [4-(メタルオ)フェニル] - 1 -
(4-ニトロフェニル) - 3 - トリフルオロメチ
ル]ピラゾール

融点 : 163-164°C

IR (KBr) : 1600, 1525 cm⁻¹

22) 3 - (フルオロメチル) - 1 - (4-フルオ
ロフェニル) - 5 - [4-(メタルオ)フェニ
ル]ピラゾール

IR (薄膜) : 1600, 1515 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ) : 2.44 (3H.s), 5.14 (1H.s),

5.67 (1H.s), 6.55 (1H.s), 6.8-7.3

(8H.m)

Mass (m/z) : 316 (M⁺)

23) 3 - (フルオロメチル) - 5 - [4-(メ
タルオ)フェニル] - 1 - (4-ニトロフェ
ニル]ピラゾール

融点 : 165-167°C

IR (KBr) : 1600, 1520, 1500 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ) : 2.50 (3H.s), 5.36 (1H.s),

5.60 (1H.s), 6.64 (1H.s), 7.1-8.3

(8H.m)

Mass (m/z) : 343 (M⁺)

24) 3 - (ジフルオロメチル) - 1 - (4-ニ
トロフェニル) - 5 - [4-(メタルオ)フェ
ニル]ピラゾール

融点 : 124-129°C

IR (KBr) : 1600, 1520 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ) : 2.50 (3H.s), 6.5-8.5

(10H.m)

Mass (m/z) : 361 (M⁺)

25) 3 - (ジフルオロメチル) - 1 - (4-フル
オロフェニル) - 5 - [4-(メタルオ)フェ
ニル]ピラゾール

融点 : 70-71°C

IR (KBr) : 1600, 1520 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ) : 2.48 (3H.s), 6.7-7.4

(10H.m)

Mass (m/z) : 334 (M⁺)

26) 1 - (2-クロロフェニル) - 5 - [4 -
(メタルオ)フェニル]ピラゾール - 3 - カ
ルボン酸エチルエステル

融点 : 119-120°C

IR (KBr) : 1715, 1605 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ) : 1.42 (3H.t.J=7Hz), 2.45

(3H.s), 4.45 (2H.q.J=7Hz), 7.0-7.6

(9H.m)

Mass (m/z) : 372 (M⁺), 344

実施例 6 と同様にして下記の化合物(実施例 15
-1)から(15-29)を得る。

実施例 15

1) 1 - (4-フルオロフェニル) - 3 - [4 -
(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール - 5
- カルボニトリル

融点 : 200-202°C

IR (KBr) : 2240, 1600, 1515 cm⁻¹

NMR (DMSO-d₆, δ) : 3.28 (3H.s), 7.4-8.3

(9H.m)

Mass (m/z) : 341 (M⁺)

2) 1 - (4-フルオロフェニル) - 5 - [4 -
(メタルオ)フェニル]ピラゾール - 3 - カ
ルボニトリル

融点 : 106-107°C

IR (KBr) : 2250, 1600, 1510 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ) : 2.48 (3H.s), 6.84 (1H.s),

7.0-7.4 (8H.m)

Mass (m/z) : 309 (M⁺)

3) 5 - [4-(メタルスルホニル)フェニル]
- 1 - (4-ピリジル)ピラゾール - 3 - カ
ルボニトリル

特開平3-141261(37)

融点: 194-195°C

IR (KBr): 2250, 1585, 1500 cm^{-1}

¹H-NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.27 (3H, s), 7.3-8.1

(7H, m), 8.70 (2H, d, J=5Hz)

Mass (m/z): 324 (H^+)

4) 5-[4-(メタルオ)フェニル]-1-(4-ビリジル)ピラゾール-3-カルボニトリル塩酸塩

融点: 185-188°C

IR (KBr): 2350, 2250, 2120, 2020, 1630, 1510 cm^{-1}

¹H-NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.50 (3H, s), 7.1-7.6

(7H, m), 8.75 (2H, d, J=6Hz)

Mass (m/z): 292 (H^+)

5) 1-(2-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 147-148°C

IR (KBr): 2250, 1600, 1500 cm^{-1}

1-フェニルピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 179-180°C

IR (KBr): 2250, 1600, 1500 cm^{-1}

¹H-NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.25 (3H, s), 7.3-8.0

(10H, m)

Mass (m/z): 323 (H^+)

9) 1-(4-メトキシフェニル)-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 153-154°C

IR (KBr): 2250, 1600, 1515 cm^{-1}

¹H-NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.25 (3H, s), 3.80 (3H, s), 7.0-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 353 (H^+)

10) 1-(4-メチルフェニル)-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 210-213°C

IR (KBr): 2250, 1600, 1515 cm^{-1}

¹H-NMR (CDCl₃, δ): 2.41 (3H, s), 3.08 (3H, s),

¹H-NMR (CDCl₃, δ): 3.07 (3H, s), 7.00 (1H, s),

7.0-8.0 (8H, m)

Mass (m/z): 341 (H^+)

6) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 129-130°C

IR (KBr): 2250, 1610, 1520 cm^{-1}

¹H-NMR (CDCl₃, δ): 3.08 (3H, s), 6.8-8.0 (8H, m)

Mass (m/z): 359 (H^+)

7) 1-(3-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 167-168°C

IR (KBr): 2250, 1600, 1495 cm^{-1}

¹H-NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.26 (3H, s), 7.2-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 341 (H^+)

8) 5-(4-メタルスホニル)フェニル]-

6.98 (1H, s), 7.1-8.0 (8H, m)

11) 5-(4-フルオロフェニル)-1-[4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 82-83°C

IR (KBr): 2250, 1610, 1545, 1500 cm^{-1}

Mass (m/z): 309 (H^+)

12) 5-[4-(メタルオ)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 165-166°C

IR (KBr): 2250, 1600, 1520, 1480 cm^{-1}

Mass (m/z): 336 (H^+)

13) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[5-(メタルオ)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

IR (薄膜): 2250, 1600, 1510 cm^{-1}

14) 5-[5-(メタルオ)-2-チエニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル

IR (薄膜) : 2250, 1600, 1525, 1500 cm^{-1}
 18) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 147-148°C
 IR (KBr) : 2250, 1675, 1615, 1510 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ) : 3.19 (3H, s), 7.2-7.7 (9H, m), 8.46 (1H, s)
 Mass (m/z) : 320
 19) 5-[4-(アセトアミド)フェニル]-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 96-98°C
 IR (KBr) : 3340, 2250, 1670, 1600, 1535, 1510 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ) : 2.04 (3H, s), 7.1-7.8 (9H, m), 10.10 (1H, s)
 Mass (m/z) : 320 (H^+)
 20) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-(4-トリル)ピラゾール-3

20) 1,5-ビス(4-メトキシフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 79-80°C
 IR (KBr) : 2250, 1610, 1515 cm^{-1}
 NMR (CDCl $_3$, δ) : 3.81 (3H, s), 3.83 (3H, s), 6.7-7.3 (9H, m)
 Mass (m/z) : 305 (H^+)
 21) 5-(4-シアノフェニル)-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 154-156°C
 IR (KBr) : 2250, 2230, 1615, 1510 cm^{-1}
 NMR (CDCl $_3$, δ) : 6.96 (1H, s), 7.0-7.7 (8H, m)
 Mass (m/z) : 288 (H^+)
 22) 5-[3,5-ジ(1-ブチル)-4-ヒドロキシフェニル]-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 189-190°C
 IR (KBr) : 3600, 2250, 1600, 1500 cm^{-1}

-カルボニトリル
 IR (薄膜) : 2250, 1680, 1610, 1515 cm^{-1}
 NMR (CDCl $_3$, δ) : 2.38 (3H, s), 3.33 (3H, s), 6.8-7.4 (9H, m), 8.55 (1H, s)
 19) 1-(4-フルオロフェニル)-5-(4-メトキシフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 122-123°C
 IR (KBr) : 2250, 1610, 1500 cm^{-1}
 NMR (CDCl $_3$, δ) : 3.82 (3H, s), 6.8-7.4 (9H, m)
 Mass (m/z) : 293 (H^+)
 19) 5-(4-メトキシフェニル)-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 125-126°C
 IR (KBr) : 2250, 1615, 1600, 1520, 1500 cm^{-1}
 Mass (m/z) : 320 (H^+)
 NMR (DMSO- d_6 , δ) : 1.24 (18H, s), 6.96 (2H, s), 7.3-7.5 (8H, m)
 Mass (m/z) : 391 (H^+), 378
 23) 1-(2-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 76-77°C
 IR (KBr) : 2250, 1600, 1505 cm^{-1}
 NMR (CDCl $_3$, δ) : 2.46 (3H, s), 6.87 (1H, s), 7.0-7.8 (8H, m)
 Mass (m/z) : 309 (H^+)
 24) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点 : 74-75°C
 IR (KBr) : 2250, 1600, 1520 cm^{-1}
 NMR (CDCl $_3$, δ) : 2.47 (3H, s), 6.8-7.6 (8H, m)
 Mass (m/z) : 327 (H^+)
 25) 1-(2,5-ジフルオロフェニル)-5-

[4-(メチルチオ)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

IR (薄膜) : 2250, 1625, 1800, 1510 cm^{-1}

26) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

融点 : 132-134°C

IR (KBr) : 2250, 1670, 1600, 1515 cm^{-1}

Mass (m/z) : 348 (H^+)

27) 5-[4-(メチルチオ)フェニル]-1-(2-ニトロフェニル)ビラゾール-3-カルボニトリル

IR (薄膜) : 2250, 1605, 1555 cm^{-1}

28) 1-(4-フルオロ-2-ニトロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

IR (薄膜) : 2250, 1590, 1550, 1510 cm^{-1}

29) 1-(2-クロロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

実施例16

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ビラゾール-3-アミン(3g)、塩化第二銅(1.6g)および亜硝酸1-ブチル(1.14g)のアセトニトリル(50ml)およびジオキサン(20ml)中混合物を室温で4時間攪拌する。不溶物を濾過し、濾液に酢酸エチルと水を加える。有機層を分離し、希塩酸で洗浄後、乾燥、濃縮する。油状残液(3.8g)をシリカゲル(40g)カラムクロマトグラフィーに付し、トルエンと酢酸エチルの混合溶媒(10:1)で希釈して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ビラゾール(1.4g)の褐色油状物を得る。

IR (薄膜) : 1600, 1510 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ) : 2.45 (3H, s), 6.48 (1H, d, J=1.8Hz), 6.9-7.4 (8H, m), 7.70 (1H, d, J=1.8Hz)

Mass (m/z) : 284 (H^+)

実施例2と同様にして下記の化合物(実施例17

融点 : 124-125°C

IR (KBr) : 2250, 1600 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ) : 2.45 (3H, s), 8.88 (1H, s), 7.0-7.5 (8H, m)

Mass (m/z) : 325 (H^+)

(以下余白)

-1)から17-30)を得る。

実施例17

1) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール

融点 : 110-112°C

IR (KBr) : 1600, 1515 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ) : 3.25 (3H, s), 6.83 (1H, d, J=1.9Hz), 7.2-8.0 (9H, m)

Mass (m/z) : 310 (H^+)

2) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

融点 : 197°C

IR (KBr) : 2240, 1600, 1515 cm^{-1}

3) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-(4-ビリジル)ビラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点 : 195-199°C

IR (KBr) : 1715, 1585, 1500 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ) : 1.53 (3H, t, J=7Hz), 3.28

(3H.s), 4.37 (2H.q, J=7Hz), 7.2-7.4 (3H.m), 7.62 (2H.d, J=8.5Hz), 7.97 (2H.d, J=8.5Hz), 8.68 (2H.br s)

Mass (m/z): 371 (M⁺)

4) 1-(2-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 165-167°C

IR (KBr): 1720, 1600, 1500 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ): 1.43 (3H.t, J=7Hz), 3.06 (3H.s), 4.47 (2H.q, J=7Hz), 7.0-7.9 (9H.m)

Mass (m/z): 388 (M⁺), 316

5) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 184-185°C

IR (KBr): 1720, 1605, 1520 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ): 1.40 (3H.t, J=7Hz), 3.07 (3H.s), 4.47 (2H.q, J=7Hz), 6.8-8.0

Mass (m/z): 400 (M⁺)

9) 1-(4-メチルフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 149-151°C

IR (KBr): 1720, 1600, 1520 cm⁻¹

Mass (m/z): 364 (M⁺)

10) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 199-200°C

IR (KBr): 2250, 1600, 1530, 1500 cm⁻¹

Mass (m/z): 366 (M⁺)

11) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[5-(メチルスルホニル)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 131-132°C

IR (KBr): 2250, 1510 cm⁻¹

NMR (DMSO-d₆, δ): 3.35 (3H.s), 7.3-7.8

(8H.m)

Mass (m/z): 406 (M⁺)

6) 1-(3-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 110-112°C

IR (KBr): 1720, 1605, 1490 cm⁻¹

NMR (CDCl₃, δ): 1.43 (3H.t, J=7Hz), 3.09 (3H.s), 4.47 (2H.q, J=7Hz), 7.0-8.1 (1H.m)

Mass (m/z): 386 (M⁺)

7) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-フェニルピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (KBr): 1720, 1600, 1500 cm⁻¹

8) 1-(4-メトキシフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 122-125°C

IR (KBr): 1715, 1610, 1590, 1515 cm⁻¹

(7H.m)

Mass (m/z): 347 (M⁺)

12) 5-[5-(メチルスルホニル)-2-チエニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 98-106°C

IR (KBr): 2250, 1615, 1595, 1530 cm⁻¹

Mass (m/z): 374 (M⁺)

13) 1-(2,5-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 139-140°C

IR (KBr): 2250, 1620, 1605, 1505 cm⁻¹

NMR (DMSO-d₆, δ): 3.26 (3H.s), 7.4-8.0 (8H.m)

Mass (m/z): 359 (M⁺)

14) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 170-173°C

IR (KBr): 2250, 1610, 1520 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.23 (3H, s), 3.26 (3H, s), 7.4-8.0 (9H, m), 8.68 (1H, s)
 Mass (m/z): 380 (H^+)
 16) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-(3-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点: 123-125°C
 IR (KBr): 2250, 1605, 1535 cm^{-1}
 Mass (m/z): 368 (H^+)
 18) 1-(4-フルオロ-2-ニトロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル
 融点: 191-193°C
 IR (KBr): 2250, 1600, 1645, 1510 cm^{-1}
 Mass (m/z): 386 (H^+)
 17) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール
 融点: 163-164°C
 20) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-[4-ニトロフェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル
 融点: 209-210°C
 IR (KBr): 1710, 1600, 1626 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ): 1.33 (3H, t, J=7Hz), 3.26 (3H, s), 4.37 (2H, q, J=7Hz), 7.38 (1H, s), 7.5-8.4 (8H, m)
 Mass (m/z): 416 (H^+)
 21) 3-(フルオロメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール
 融点: 166-167°C
 IR (KBr): 1600, 1515 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.25 (3H, s), 5.35 (1H, s), 5.59 (1H, s), 6.9-8.0 (8H, m)
 Mass (m/z): 348
 22) 酢酸 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-ピラゾリルメチル

IR (KBr): 1800, 1535 cm^{-1}
 Mass (m/z): 411 (H^+)
 18) 3-プロモ-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール
 融点: 185-186°C
 IR (KBr): 1600, 1515 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.24 (3H, s), 7.03 (1H, s), 7.2-8.0 (8H, m)
 Mass (m/z): 396, 394
 19) N-シクロプロピル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド
 融点: 185-186°C
 IR (KBr): 3350, 1680, 1605, 1545, 1535, 1510 cm^{-1}
 NMR (CDCl $_3$, δ): 0.6-1.0 (4H, m), 2.8-3.0 (1H, m), 3.08 (3H, s), 7.0-7.5 (8H, m), 7.90 (2H, d, J=8Hz)
 Mass (m/z): 399 (H^+)
 融点: 102-103°C
 IR (KBr): 1740, 1720, 1600, 1515 cm^{-1}
 NMR (CDCl $_3$, δ): 2.14 (3H, s), 3.07 (3H, s), 5.10 (2H, s), 6.86 (1H, s), 7.0-8.0 (8H, m)
 Mass (m/z): 388 (H^+), 345
 23) 3-(クロロメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール
 融点: 155-156°C
 IR (KBr): 1600, 1515 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.26 (3H, s), 4.82 (2H, s), 6.91 (1H, s), 7.2-8.0 (8H, m)
 Mass (m/z): 364 (H^+)
 24) 3-(フルオロメチル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール
 融点: 152-153°C
 IR (KBr): 1600, 1525 cm^{-1}
 Mass (m/z): 375 (H^+)

25) 3-(ジフルオロメチル)-1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール

融点: 175-176°C

IR (KBr): 3430, 1616, 1540 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 2.72 (3H, s), 3.07 (3H, s), 3.97 (1H, s), 6.5-8.1 (10H, m)

Mass (m/z): 377 (H^+)

26) 3-(ジフルオロメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール

融点: 190-191°C

IR (KBr): 1600, 1515 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 3.08 (3H, s), 6.5-8.0 (10H, m)

Mass (m/z): 366 (H^+)

27) 3-(ブromo-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール

融点: 169-170°C

$J=6\text{Hz}$, 6.9-7.5 (7H, m), 7.87 (2H, d, $J=8\text{Hz}$)

Mass (m/z): 413 (H^+)

30) 1-(2-クロロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 151-152°C

IR (KBr): 2250, 1610, 1545, 1490 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 3.05 (3H, s), 7.02 (1H, s), 7.3-8.0 (8H, m)

Mass (m/z): 375 (H^+)

実施例18

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルアオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸メチルエステル (3.6g) と水酸化カリウム (2g) のメタノール (50ml) 中混合物を30分間還流する。溶液を留去する。残渣を水に溶解し、クロロホルムで洗浄する。水層を希塩酸で酸性とし、酢酸エチルで抽出する。抽出物を水洗し、硫酸マグネシウムで乾燥後、濃縮する。得ら

IR (KBr): 1600, 1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 3.10 (3H, s), 7.0-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 396, 394

28) N-フェニル-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサリド

融点: 232-233°C

IR (KBr): 15350, 1680, 1595, 1535,

1605 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 3.26 (3H, s), 7.0-8.0 (14H, m), 10.28 (1H, s)

Mass (m/z): 435

29) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-(1-ピロリジニルカルボニル)ピラゾール

融点: 229-230°C

IR (KBr): 1615, 1515, 1500 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 1.77-2.07 (4H, m), 3.00 (3H, s), 3.07 (2H, t, $J=6\text{Hz}$), 3.97 (2H, t,

れた残渣をエタノールから再結晶して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルアオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸 (2g) を結晶として得る。

融点: 199-200°C

IR (KBr): 3550, 3500, 2500, 1710, 1680, 1600, 1515 cm^{-1}

Mass (m/z): 328 (H^+)

実施例18と同様にして下記の化合物 (実施例19-1) から19-11) を得る。

実施例19

1) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-(4-ピリジル)ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 270-271°C (分解)

IR (KBr): 1690, 1610, 1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 3.25 (3H, s), 7.2-8.0 (7H, m), 8.66 (2H, d, $J=8\text{Hz}$), 13.25 (1H, s)

Mass (m/z): 343 (H^+)

2) 5-[4-(メチルアオ)フェニル]-1-

(4-ビリジル)ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 225-227°C

IR (KBr): 3400, 2400, 1700, 1600,
1510 cm^{-1} Mass (m/z): 311 (H^+)

3) 1-(2-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルホルニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 228-229°C(分解)

IR (KBr): 2600, 1700, 1600, 1500 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.25 (3H, s), 7.22 (1H, s), 7.3-8.0 (8H, m), 13.17 (1H, s)Mass (m/z): 380 (H^+)

4) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メタルホルニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 231-233°C(分解)

IR (KBr): 2600, 1700, 1600, 1515 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.25 (3H, s), 7.3-8.0 (8H, m), 13.20 (1H, s)

(メタルホルニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 185-187°C

IR (KBr): 2600, 1700, 1600, 1510 cm^{-1} Mass (m/z): 356 (H^+)

9) 5-(4-フルオロフェニル)-1-[4-(メタルホルニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 176-178°C

IR (KBr): 3500, 1680, 1610, 1545,

1490 cm^{-1} Mass (m/z): 328 (H^+)

(以下余白)

Mass (m/z): 378 (H^+)

8) 1-(3-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルホルニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

IR (KBr): 2630, 1705, 1600, 1490 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.26 (3H, s), 7.1-8.0 (9H, m)Mass (m/z): 360 (H^+)

9) 5-[4-(メタルホルニル)フェニル]-1-フルオロピラゾール-3-カルボン酸

融点: 203-205°C

IR (KBr): 2625, 1700, 1600, 1495 cm^{-1} Mass (m/z): 342 (H^+)

7) 1-(4-メトキシフェニル)-5-[4-(メタルホルニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 197-199°C

IR (KBr): 1700, 1600, 1515 cm^{-1} Mass (m/z): 372 (H^+)

8) 1-(4-メタルフェニル)-5-[4-

10) 5-[4-(メタルホルニル)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 188-189°C

IR (KBr): 1690, 1595, 1520 cm^{-1} Mass (m/z): 355 (H^+)

11) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メタルホルニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸

融点: 188-190°C

IR (KBr): 3300, 2600, 1705, 1680, 1600,

1620 cm^{-1} Mass (m/z): 346 (H^+)

実施例20

1-(4-メトキシフェニル)-5-[4-(メタルホルニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル(2g)と炭化水素酸(57%, 5ml)の酢酸(10ml)中混合物を5時間還流する。反応混合物を濃縮し、残液を亜硫酸ナトリウム水溶液で脱炭化する。この粗製の

粉末をシリカゲル(80g)カラムクロマトグラフィに付し、クロロホルムとメタノールの混合物で溶出し、1-(4-ヒドロキシフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸(0.86g)を得る。

融点: 233-236°C(分解)

IR (KBr-A): 3550, 3250, 1700, 1600.

1516 cm^{-1}

Mass (m/z): 358 (H^+)

実施例21

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸(13.5g)と塩化チオニル(10ml)のジクロロエタン(30ml)中混合物を1時間還流する。混合物を濃縮して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニルクロリドを融状物として得る。

IR (薄膜): 1760, 1605, 1510 cm^{-1}

上記塩化物のテトラヒドロフラン(50ml)希

液を28%アンモニア水とテトラヒドロフラン(50ml)の混合物に5-10°Cで滴下する。混合物を室温で1時間攪拌する。溶液を留去し、残渣を水で粉砕して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド(11.2g)を結晶として得る。

融点: 180-181°C

IR (KBr-A): 3500, 3425, 1670, 1600.

1510 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 2.48 (3H, s), 5.70 (1H, s),

6.87 (1H, s), 7.0-7.4 (9H, m)

Mass (m/z): 327 (H^+)

実施例21と同様にして下記の化合物(実施例22-1)から22-13)を得る。

実施例22

1) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-(4-ビリジル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 288-288°C

IR (KBr-A): 3550, 3300, 3200, 1690, 1595.

1500 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 3.28 (3H, s), 7.18 (1H,

s), 7.3-8.0 (8H, m), 8.66 (2H, d, J=5Hz)

Mass (m/z): 342 (H^+)

2) 5-[4-(メチルチオ)フェニル]-1-(4-ビリジル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 213-215°C

IR (KBr-A): 3360, 3150, 1680, 1595 cm^{-1}

3) 1-(2-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 198-199°C

IR (KBr-A): 3600, 3150, 1690, 1600.

1510 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 3.06 (3H, s), 5.68 (1H, s),

6.86 (1H, s), 7.1-7.9 (9H, m)

Mass (m/z): 359 (H^+)

4) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-

[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 213-214°C

IR (KBr-A): 3440, 3150, 1685, 1610.

1520 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 3.25 (3H, s), 7.25 (1H,

s), 7.3-8.0 (7H, m)

Mass (m/z): 377 (H^+)

5) 1-(3-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 217-218°C

IR (KBr-A): 3460, 3220, 1680, 1600.

1490 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 3.26 (3H, s), 7.1-8.0

(11H, m)

Mass (m/z): 359 (H^+)

6) 5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-フェニルピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 265-266°C

IR (KBr-A): 3476, 3200, 1680, 1600.

1495 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.24 (3H, s), 7.16 (1H, s), 7.3-8.0 (11H, m)Mass (m/z): 341 (H^+)

7) 1-(4-メトキシフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 178-179°C

IR (KBr-A): 3480, 3310, 3230, 1676,

1590, 1515 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.24 (3H, s), 3.79 (3H, s), 6.9-8.0 (11H, m)Mass (m/z): 371 (H^+)

8) 1-(4-ヒドロキシフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 269-271°C

IR (KBr-A): 3550, 3460, 3200, 1680,

1600, 1520 cm^{-1}

融点: 192-194°C

IR (KBr-A): 3480, 3150, 1800, 1610, 1595,

1520 cm^{-1} Mass (m/z): 354 (H^+)

12) 1-(4-フルオロフェニル)-5-(4-トリル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 183-186°C

IR (KBr-A): 3500, 3350, 3300, 1685, 1610,

1510 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.29 (3H, s), 6.8-7.5

(9H, m), 7.68 (2H, s)

Mass (m/z): 295 (H^+)

13) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 171-173°C

IR (KBr-A): 3440, 3200, 1685, 1600,

1515 cm^{-1} Mass (m/z): 345 (H^+)Mass (m/z): 357 (H^+)

9) 1-(4-メチルフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 125-130°C

IR (KBr-A): 3470, 3200, 1680, 1600,

1515 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.36 (3H, s), 3.24 (3H, s), 7.1-8.0 (11H, m)Mass (m/z): 353 (H^+)

10) 5-(4-フルオロフェニル)-1-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 157-159°C

IR (KBr-A): 3400, 3270, 1670, 1610, 1595,

1545, 1495 cm^{-1} Mass (m/z): 327 (H^+)

11) 5-[4-(メチルチオ)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

実施例23

1-(4-ヒドロキシフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド(1.3g)と塩化メチルスルホニル(2.5g)のピリジン(20ml)中混合物を80°Cで5時間攪拌する。溶液を留去し、希塩酸と酢酸エタールを残渣に加える。有機層を水洗し、乾燥、濃縮する。残渣をシリカゲル(20g)カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムとメタノールの混合溶媒(20:1)で溶出して、5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-1-[4-(メチルスルホニルオキシ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.79g)を結晶として得る。

融点: 195-196°C

IR (KBr-A): 2250, 1600, 1510 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.10 (3H, s), 3.45 (3H,

s), 7.4-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 417 (H^+)

実施例24

通ロウ素酸ナトリウム(0.7g)の水(5ml)溶液を氷冷した1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.6g)のメタノール(50ml)溶液に加える。得られた溶液を室温で8時間攪拌する。不溶物を濾去し、濾液を濃縮する。得られた残液を酢酸エチルに溶解し、溶液を亜硫酸水素ナトリウム水溶液と水で洗淨する。有機層を乾燥し、濃縮して油状残留物(0.6g)を得る。残液をシリカゲル(13g)カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムとメタノールの混合溶液(50:1)で溶出する。精製物をヘキサンとエタノールの混合物から結晶化して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.45g)を結晶として得る。

融点: 104-105°C

IR (KBr): 2250, 1600, 1515 cm^{-1} NMR (CDCl_3 , δ): 2.76 (3H, s), 6.94 (1H, s).

1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル(1.1g)、鉄粉(1.1g)および酸化アンモニウム(0.11g)のエタノール(20ml)および水(7ml)中混合物を1時間還流する。溶液を留去し、残液を濃縮し、水洗後、酢酸エチルに溶解する。溶液を濃縮し、濾液を濃縮する。得られた残液を酢酸エチルから再結晶して、1-(4-アミノフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.83g)を結晶として得る。

融点: 228-229°C

IR (KBr): 3480, 3400, 3150, 2250, 1645,

1605, 1520 cm^{-1} NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 3.25 (3H, s), 5.57 (2H,

s), 6.5-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 338 (H^+)**実施例27**

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-アミン(0.7g)と無水酢酸(0.22ml)のジク

7.0-7.7 (8H, m)

Mass (m/z): 325 (H^+), 310**実施例25**

5-(4-フルオロフェニル)-1-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.75g)と30%過酸化水素溶液(1.4ml)の酢酸(10ml)中混合物を50°Cで4時間攪拌する。反応混合物を濃縮し、残液をエタノールから再結晶して、5-(4-フルオロフェニル)-1-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.66g)を結晶として得る。

融点: 162-163°C

IR (KBr): 3140, 2250, 1610, 1595,

1500 cm^{-1} NMR (CDCl_3 , δ): 3.09 (3H, s), 6.89 (1H, s),

7.0-8.0 (8H, m)

Mass (m/z): 341 (H^+)**実施例26**

5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-

ロメタン(15ml)中混合物を室温で3時間攪拌後、濃縮する。残液をシリカゲル(15g)カラムクロマトグラフィーに付し、トルエンと酢酸エチルの混合溶液(2:1)で溶出する。目的生成物(0.63g)をエタノールから再結晶して、N-[1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-ピラゾリ]アセタミド(0.52g)を淡黄色結晶として得る。

融点: 203-205°C

IR (KBr): 3350, 1690, 1580, 1510 cm^{-1} NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 2.05 (3H, s), 3.21 (3H,

s), 6.98 (1H, s), 7.2-7.6 (6H, m), 7.89

(2H, d, J=8Hz), 10.72 (1H, s)

Mass (m/z): 373 (H^+), 331**実施例28**

クロロ酢酸メチル(0.163ml)のアセトニトリル(0.7ml)溶液を1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-アミン(0.7g)とピリジ

ン(0.171g)のアセトニトリル(5ml)−テトラヒドロフラン(7ml)混液に−20℃で凍下する。混合物を5℃で1時間攪拌し、酢酸エチルで希釈後、水洗し、乾燥、濃縮する。残渣(0.9g)をクロロホルムとエタノールの混合物から再結晶して、N-(1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-ピラゾール]カルバミン酸メチル(0.51g)を淡黄色結晶として得る。

融点: 225-227℃

IR (KBr): 3320, 1730, 1685, 1610 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.16 (3H, s), 6.73 (1H, s), 7.1-7.5 (6H, m), 7.84 (2H, d, J=6Hz), 10.22 (1H, s)

Mass (m/z): 389 (M^+), 357

実施例29

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-アミン(0.8g)と塩化メタンスルホン(0.224g)のピリジン(6ml)中混合物を室温で2時間

攪拌する。ピリジンを留去し、残渣を酢酸エチルに溶解し、水および希塩酸で洗浄後、乾燥、濃縮する。残留する抽出物(1.1g)をシリカゲル(20g)カラムクロマトグラフィーに付し、トルエンと酢酸エチルの混合溶媒(2:1)で溶出する。生成物(0.74g)をエタノールから再結晶して、N-(1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-ピラゾール]メタンスルホンアミド(0.62g)を淡黄色結晶として得る。

融点: 186-187℃

IR (KBr): 3160, 1655, 1620 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.17 (3H, s), 3.24 (3H, s), 6.55 (1H, s), 7.2-7.6 (6H, m), 7.91 (2H, d, J=6.5Hz), 10.37 (1H, s)

Mass (m/z): 409 (M^+)

実施例30

1-(4-アミノフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.7g)と濃酸(1ml)のホルマ

リン(37%, 6ml)中混合物を30分間濃縮する。クロロホルムを加え、混合物を水洗後、乾燥、濃縮する。残留する抽出物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、酢酸エチルとトルエンの混合溶媒(2:1)で溶出する。得られた生成物を酢酸エチルから再結晶して、1-[4-(ジメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.46g)を結晶として得る。

融点: 171-172℃

IR (KBr): 2240, 1610, 1630 cm^{-1}

Mass (m/z): 366 (M^+)

実施例31

1-(4-アミノフェニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(1g)、炭化メチル(0.42g)および炭酸カリウム(0.6g)のN,N-ジメチルホルムアミド(10ml)中混合物を室温で1時間攪拌する。混合物を水に注ぎ、酢酸エチルで抽出する。抽出物を水洗し、乾燥、濃縮する。残渣

(1.2g)をシリカゲル(20g)カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムで溶出して、1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(0.51g)を結晶として得る。

融点: 166-168℃

IR (KBr): 3450, 2240, 1610, 1630 cm^{-1}
 NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.61 (3H, d, J=5Hz), 3.25 (3H, s), 6.17 (1H, q, J=5Hz), 6.6-6.9 (9H, m)

実施例10と同様にして下記の化合物(実施例32)を得る。

実施例32

1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-イルメチルアミン

IR (薄膜): 3400, 3300, 1600, 1500 cm^{-1}

NMR (CDCl $_3$, δ): 1.85 (2H, s), 2.47 (3H, s), 3.96 (2H, s), 6.43 (1H, s), 7.0-7.4

(8H.m)

Mass (m/z): 313 (H⁺)

実施例24と同様にして下記の化合物(実施例33-1)から33-7)を得る。

実施例33

1) 1-(2-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 139-140°C

IR (ν_{max}): 2250, 1600, 1500 cm⁻¹NMR (CDCl₃, δ): 2.73 (3H.s), 6.96 (1H.s),

7.0-7.7 (8H.m)

Mass (m/z): 325 (H⁺), 310

2) 1-(2,4-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メチルフェニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 136-137°C

IR (ν_{max}): 2260, 1615, 1520 cm⁻¹NMR (CDCl₃, δ): 2.74 (3H.s), 6.8-7.7

(8H.m)

6) 3-(クロロメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]ピラゾール

融点: 98-97°C

IR (ν_{max}): 1600, 1515 cm⁻¹NMR (CDCl₃, δ): 2.75 (3H.s), 4.70 (2H.s),

6.65 (1H.s), 7.0-7.7 (8H.m)

Mass (m/z): 346 (H⁺)

7) 3-(ジフルオロメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]ピラゾール

融点: 165-166°C

IR (ν_{max}): 1600, 1515 cm⁻¹NMR (CDCl₃, δ): 2.75 (3H.s), 6.5-7.7

(10H.m)

Mass (m/z): 350 (H⁺), 335

実施例26と同様にして下記の化合物(実施例34-1)から34-13)を得る。

実施例34

1) 1-(4-アミノフェニル)-5-[5-

Mass (m/z): 343 (H⁺), 328

3) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

IR (薄膜): 2250, 1680, 1610, 1515 cm⁻¹

4) 5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

融点: 167-168°C

IR (ν_{max}): 1600, 1530, 1495 cm⁻¹Mass (m/z): 395 (H⁺)

5) 3-(フルオロメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]ピラゾール

融点: 130-131°C

IR (ν_{max}): 1600, 1515 cm⁻¹NMR (CDCl₃, δ): 2.75 (3H.s), 5.38 (1H.s),

5.60 (1H.s), 6.69 (1H.s), 7.0-7.7

(8H.m)

Mass (m/z): 332 (H⁺)

(メチルスルホニル)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 200-203°C

IR (ν_{max}): 3500, 3420, 2250, 1620,1520 cm⁻¹Mass (m/z): 344 (H⁺)

2) 1-(4-アミノフェニル)-5-(4-トリル)ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 174-175°C

IR (ν_{max}): 3460, 3380, 1730, 1700, 1635,1520 cm⁻¹Mass (m/z): 321 (H⁺)

3) 1-(4-アミノフェニル)-1-(4-メトキシフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 175-177°C

IR (ν_{max}): 3420, 3350, 2250, 1640, 1610,1520 cm⁻¹Mass (m/z): 290 (H⁺)

4) 1-(4-アミノフェニル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 153-155°C

IR (KBr): 3450, 3350, 3230, 1715, 1635, 1610, 1520 cm^{-1}

Mass (m/z): 353 (H^+)

5) 1-(2-アミノフェニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 191-192°C

IR (KBr): 3500, 3400, 2250, 1635, 1600, 1500 cm^{-1}

Mass (m/z): 335 (H^+)

6) 1-(2-アミノ-4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 206-208°C

IR (KBr): 3500, 3400, 2250, 1630, 1510 cm^{-1}

1625, 1508 cm^{-1}

Mass (m/z): 365 (H^+)

10) 1-(4-アミノフェニル)-3-(メタルスルホニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール

融点: 208-210°C

IR (KBr): 3500, 3400, 1635, 1605, 1520 cm^{-1}

Mass (m/z): 391 (H^+)

11) 1-(4-アミノフェニル)-3-(フルオロメタル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール

融点: 112-116°C

IR (KBr): 3420, 3240, 1610, 1620 cm^{-1}

12) 1-(4-アミノフェニル)-3-(ジフルオロメタル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]ピラゾール

IR (薄膜): 3500, 3380, 1625, 1520 cm^{-1}

13) 1-(4-アミノフェニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3

Mass (m/z): 356 (H^+)

7) 1-(4-アミノフェニル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]-3-(トリフルオロメタル)ピラゾール

融点: 112-113°C

IR (KBr): 3500, 3400, 1625, 1600, 1520, 1500 cm^{-1}

Mass (m/z): 349 (H^+)

8) 1-(4-アミノフェニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]-3-(トリフルオロメタル)ピラゾール

融点: 250-251°C

IR (KBr): 3500, 3400, 1640, 1600, 1520, 1500 cm^{-1}

Mass (m/z): 381 (H^+)

9) 1-(4-アミノフェニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]-3-(トリフルオロメタル)ピラゾール

融点: 213-214°C

IR (KBr): 3500, 3380, 3280, 1645, 1610,

-カルボン酸エチルエステル

融点: 245-247°C

IR (KBr): 3450, 3350, 1740, 1645, 1605, 1520 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 1.32 (3H, t, J=7Hz), 3.24 (3H, s), 4.33 (2H, q, J=7Hz), 5.51 (2H, s), 6.5-6.6 (9H, m)

Mass (m/z): 355 (H^+)

実施例27と同様にして下記の化合物(実施例35-1)および(35-2)を得る。

実施例35

1) 5-[4-(アセトアミド)フェニル]-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 273-275°C

IR (KBr): 3500, 3200, 1670, 1600, 1550, 1610 cm^{-1}

Mass (m/z): 335 (H^+)

2) 1-[4-(アセトアミド)フェニル]-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラ

ゾール-3-カルボニトリル

融点: 208-207°C

IR (KBr-片): 3270, 2250, 1690, 1670, 1605,

1555, 1515 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.07 (3H, s), 3.25 (3H,

s), 7.3-8.0 (9H, m), 10.21 (1H, s)

Mass (m/z): 380 (H^+), 358

実施例29と同様にして下記の化合物(実施例36)を得る。

実施例36

1-[4-(メチルスルホニルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

融点: 232-233°C

IR (KBr-片): 3240, 2250, 1600, 1515 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.09 (3H, s), 3.26 (3H,

s), 7.2-8.0 (9H, m), 10.17 (1H, s)

Mass (m/z): 418 (H^+)

(以下空白)

3) 1-[4-(ジエチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

融点: 155-156°C

IR (KBr-片): 2240, 1610, 1520 cm^{-1} NMR (CDCl₃, δ): 1.18 (6H, t, J=7Hz), 3.07

(3H, s), 3.37 (4H, q, J=7Hz), 6.5-8.0

(9H, m)

Mass (m/z): 394 (H^+), 379

4) 3-(フルオロメチル)-1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール

融点: 151-153°C

IR (KBr-片): 3426, 1615, 1535 cm^{-1} NMR (CDCl₃, δ): 2.85 (3H, s), 3.06 (3H, s),

3.94 (1H, s), 5.36 (1H, s), 5.50 (1H, s),

6.5-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 359 (H^+)

実施例37

1-(4-フルオロフェニル)-5-[5-

実施例31と同様にして下記の化合物(実施例37-1)から37-4)を得る。

実施例37

1) 1-[4-(ジメチルアミノ)フェニル]-5-[5-(メチルスルホニル)-2-チエニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

融点: 168-169°C

IR (KBr-片): 2250, 1610, 1525 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.01 (6H, s), 3.33 (3H,

s), 6.7-7.8 (7H, m)

Mass (m/z): 372 (H^+)

2) 1-[4-(エチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル

融点: 167-168°C

IR (KBr-片): 3400, 2240, 1610, 1525 cm^{-1} NMR (CDCl₃, δ): 1.28 (3H, t, J=7Hz), 3.07

(3H, s), 3.13 (2H, q, J=7Hz), 8.5-8.0

(9H, m)

Mass (m/z): 366 (H^+), 351

(メチルサオ)-2-チエニル]ビラゾール-3-カルボン酸エチルエステル(2.1g)とナトリウムメトキシド(895mg)のホルムアミド(10ml)中混合物を100°Cで1時間攪拌する。反応混合物に水を加え、析出物を集め、水洗後、減圧下に乾燥して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[5-(メチルサオ)-2-チエニル]ビラゾール-3-カルボキサミド(1.6g)を結晶として得る。

融点: 132-140°C

IR (KBr-片): 3500, 3300, 3200, 1700,

1565, 1600, 1510 cm^{-1} Mass (m/z): 353 (H^+)

実施例38と同様にして下記の化合物(実施例39-1)から39-16)を得る。

実施例39

1) 5-[5-(メチルサオ)-2-チエニル]-1-(4-ニトロフェニル)ビラゾール-3-カルボキサミド

IR (KBr-片): 3350, 3180, 1675, 1595,

特開平3-141261(51)

1520 cm^{-1}

2) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 222-224°C

IR (KBr): 3500, 3430, 3200, 1660, 1615,

1510 cm^{-1} Mass (m/z): 338 (H^+)

3) 5-(4-アミノフェニル)-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 195-199°C

IR (KBr): 3500, 3350, 3200, 1675, 1630,

1610, 1510 cm^{-1} Mass (m/z): 296 (H^+)

4) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-(4-トリル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 202-209°C

IR (KBr): 3400, 3200, 1665, 1610,

1610, 1515 cm^{-1} NMR (DMSO- d_6 , δ): 3.75 (3H, s), 3.78 (3H,

s), 6.7-7.0 (11H, m)

Mass (m/z): 329 (H^+)

8) 5-(4-アセチルフェニル)-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: >300°C

IR (KBr): 3500, 3420, 1675, 1590,

1510 cm^{-1}

9) 5-(4-シアノフェニル)-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 181-185°C

IR (KBr): 3500, 3350, 2240, 1660, 1600,

1510 cm^{-1} Mass (m/z): 306 (H^+)

10) 1-(2-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

1520 cm^{-1} Mass (m/z): 334 (H^+)

5) 1-(4-フルオロフェニル)-5-(4-メトキシフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 136-142°C

IR (KBr): 3500, 3350, 3200, 1705, 1690,

1665, 1610, 1510 cm^{-1} Mass (m/z): 311 (H^+)

6) 5-(4-メトキシフェニル)-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 200-202°C

IR (KBr): 3400, 3170, 1680, 1610, 1595,

1520 cm^{-1} Mass (m/z): 338 (H^+)

7) 1,5-ビス(4-メトキシフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 130-131°C

IR (KBr): 3450, 3300, 3250, 1675, 1660,

融点: 140-146°C

IR (KBr): 3400, 3300, 1670, 1600,

1500 cm^{-1} Mass (m/z): 327 (H^+)

11) 1-(2,5-ジフルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 185-187°C

IR (KBr): 3450, 3300, 3150, 1690, 1610,

1510 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.46 (3H, s), 7.0-7.8 (10H, m)

Mass (m/z): 345 (H^+)

12) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 183-189°C

IR (KBr): 3350, 3200, 1670, 1655, 1605,

1520 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.47 (3H, s), 3.23 (3H,

m), 6.9-7.7 (1H,m), 8.66 (1H,s)

NMR (m/z): 366 (H⁺)

13) 5-[4-(メチルチオ)フェニル]-1-(2-ニトロフェニル)ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 198-199°C (分解)

IR (KBr-A): 3500, 3160, 1690, 1610,

1530 cm⁻¹

NMR (m/z): 354 (H⁺)

14) 1-(4-フルオロ-2-ニトロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

IR (KBr-A): 3430, 3200, 1670, 1600, 1540,

1510 cm⁻¹

15) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 278-283°C (分解)

IR (KBr-A): 3350, 1665, 1600, 1520 cm⁻¹

NMR (m/z): 396 (H⁺)

実施例40と同様にして下記の化合物(実施例41-1)から(41-11)を得る。

実施例41

1) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-(4-トリル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 201-203°C

IR (KBr-A): 3260, 1730, 1690, 1600,

1530 cm⁻¹

2) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-(4-メトキシフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル

IR (薄膜): 3300, 2250, 1690, 1610,

1515 cm⁻¹

3) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-6-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 190-192°C

IR (KBr-A): 3250, 1730, 1690, 1605,

1620 cm⁻¹

16) 1-(2-クロロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 105-201°C

IR (KBr-A): 3450, 3150, 1690, 1610,

1590 cm⁻¹

NMR (m/z): 343 (H⁺)

実施例42

1-(4-アミノフェニル)-5-[5-(メチルスルホニル)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(1.1g)と濃酸(6ml)の混合物を30分間濃度する。混合物を濃縮し、残渣を水で粉末化して、1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-[5-(メチルスルホニル)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(1.1g)を結晶として得る。

融点: 152-158°C

IR (KBr-A): 3260, 2250, 1675, 1605,

1515 cm⁻¹

NMR (m/z): 372 (H⁺)

4) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 195-197°C

IR (KBr-A): 3270, 2240, 1690, 1670, 1605,

1660, 1615 cm⁻¹

NMR (DMSO-d₆, δ): 3.26 (3H,s), 7.2-8.0

(9H,m), 8.32 (1H,s), 10.46 (1H,s)

NMR (m/z): 366 (H⁺)

5) 1-[2-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 109-118°C

IR (KBr-A): 3330, 2250, 1700, 1600,

1520 cm⁻¹

NMR (m/z): 366 (H⁺), 338

6) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-6-[4-(メチルチオ)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

融点: 134-135°C

IR (KBr): 3370, 1700, 1605, 1530 cm^{-1} Mass (m/z): 377 (H^+)

7) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

融点: 163-168°C

IR (KBr): 3270, 1680, 1610, 1550, 1520,

1500 cm^{-1} Mass (m/z): 409 (H^+)

8) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

IR (薄膜): 3270, 1690, 1610, 1525,

1500 cm^{-1}

9) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-3-(メチルスルホニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール

融点: 193-198°C

IR (KBr): 3380, 1700, 1670, 1605,

1535 cm^{-1}

ナトリウム(60%, 118mg)のN,N-ジメチルホルムアミド(2時)中懸濁液に滴下する。混合物を0°Cで30分間攪拌する。これにロードメタン(0.84g)のN,N-ジメチルホルムアミド(2時)溶液を0°Cで滴下する。得られた混合物を0°Cで1時間攪拌し、水浴した希塩酸に注ぎ、酢酸エチルで抽出する。抽出物を水洗し、炭酸マグネシウムで乾燥後、減圧濃縮する。残液をエタノールから再結晶して、1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-(5-(メチルスルホニル)-2-チエニル)ピラゾール-3-カルボニトリル(1g)を結晶として得る。

融点: 170-175°C

IR (KBr): 2250, 1675, 1600, 1520 cm^{-1} Mass (m/z): 386 (H^+)

実施例42と同様にして下記の化合物(実施例43-1)から(43-12)を得る。

実施例43

1) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]ピラ

Mass (m/z): 419 (H^+)

10) 3-(ジフルオロメチル)-1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール

融点: 127-131°C

IR (KBr): 3300, 1680, 1670, 1610,

1520 cm^{-1} Mass (m/z): 359 (H^+)

11) 1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 214-216°C

IR (薄膜): 3270, 1740, 1670, 1605, 1555,

1610 cm^{-1} Mass (m/z): 415 (H^+)**実施例42**

1-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-5-[5-(メチルスルホニル)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボニトリル(1.1g)のN,N-ジメチルホルムアミド(3時)溶液を水酸化

ゾール-3-カルボン酸エチルエステル

融点: 118-120°C

IR (KBr): 1715, 1680, 1610, 1515 cm^{-1} NMR (CDCl_3 , δ): 1.43 (3H, t, J=7Hz), 3.32

(3H, s), 4.46 (2H, q, J=7Hz), 7.0-7.5

(9H, m), 8.55 (1H, s)

Mass (m/z): 367 (H^+)

2) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-(4-(トリル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1720, 1675, 1610, 1515 cm^{-1} NMR (CDCl_3 , δ): 1.39 (3H, t, J=7Hz), 2.32

(3H, s), 3.28 (3H, s), 4.42 (2H, q, J=7Hz),

6.9-7.5 (9H, m), 8.42 (1H, s)

3) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メトキシフェニル)ピラゾール-3-カルボニトリル

IR (薄膜): 2250, 1680, 1610, 1515 cm^{-1}

4) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]

ル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (薄膜): 1720, 1680, 1605, 1520 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 2.47 (3H, s), 3.28 (3H, s), 4.42 (2H, q, J=7Hz), 6.9-7.4 (9H, m), 6.37 (1H, s)

5) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

Mass (m/z): 380 (H^+)

6) 1-[2-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル

融点: 172-173°C

IR (KBr -t): 2250, 1670, 1500, 1500 cm^{-1}

Mass (m/z): 380 (H^+), 352

7) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

融点: 142-144°C

IR (KBr -t): 1680, 1610, 1520, 1500 cm^{-1}

11) 3-(ジフルオロメチル)-1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール

融点: 109-113°C

IR (KBr -t): 1680, 1605, 1520 cm^{-1}

Mass (m/z): 373 (H^+)

12) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル

IR (KBr -t): 1745, 1725, 1680, 1600,

1520 cm^{-1}

Mass (m/z): 427 (H^+)

実施例44

1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[5-(メチルスルホニル)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボニトリル (1g) と 10% 塩酸 (3ml) のメタノール (15ml) 中混合物を 60°C で 3 時間攪拌する。混合物を冷却後、濾過し、濾液を減圧濃縮する。残渣をエタ

Mass (m/z): 391

8) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

融点: 118-120°C

IR (KBr -t): 1680, 1610, 1520, 1500 cm^{-1}

Mass (m/z): 423 (H^+)

9) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール

IR (薄膜): 1675, 1610, 1520, 1500 cm^{-1}

10) 1-[4-(N-ホルミルメチルアミノ)フェニル]-3-(メチルスルホニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール

融点: 145-150°C

IR (KBr -t): 1675, 1605, 1520 cm^{-1}

Mass (m/z): 433 (H^+)

ノールで洗浄して、1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[5-(メチルスルホニル)-2-チエニル]ピラゾール-3-カルボニトリル塩酸塩 (0.89g) を結晶として得る。

融点: 205-207°C

IR (KBr -t): 2600, 2450, 2250, 1510 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 2.76 (3H, s), 3.33 (3H,

s), 5.77 (2H, d, J=8Hz), 7.26 (2H, d,

J=8Hz), 7.43 (1H, d, J=3Hz), 7.72 (1H, m),

7.78 (1H, d, J=3Hz)

Mass (m/z): 358 (H^+)

実施例44と同様にして下記の化合物 (実施例45-1) から (45-14) を得る。

実施例45

1) 1-[4-フルオロフェニル]-5-[4-(メチルアミノ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル塩酸塩

融点: 189-191°C

IR (KBr -t): 2950, 2450, 2250, 1510 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 2.73 (3H, s), 6.8-7.5

(9H.m)
Mass (m/z): 292 (H⁺)
2) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-(4-トリル)ピラゾール-3-カルボニトリル塩酸塩
融点: 199-201°C
IR (KBr): 2900, 2450, 2250, 1610, 1520 cm⁻¹
NMR (DMSO-d₆, δ): 2.29 (3H.s), 2.76 (3H.s), 6.9-7.4 (9H.m), 7.62 (2H.s)
Mass (m/z): 288 (H⁺)
3) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル塩酸塩
融点: 218-221°C
IR (KBr): 3450, 2850, 2460, 2250, 1600, 1510 cm⁻¹
NMR (DMSO-d₆, δ): 2.70 (3H.s), 3.25 (3H.s), 5.46 (2H.s), 6.5-8.0 (9H.m)
Mass (m/z): 352 (H⁺)

ゾール-3-カルボニトリル
融点: 192-193°C
IR (KBr): 3450, 2250, 1610, 1520 cm⁻¹
NMR (DMSO-d₆, δ): 2.69 (3H.d, J=5Hz), 3.22 (3H.s), 5.33 (1H.q, J=5Hz), 6.5-8.0 (9H.m)
Mass (m/z): 352 (H⁺)
7) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール
融点: 188-169°C
IR (KBr): 3400, 1610, 1535, 1500 cm⁻¹
NMR (CDCl₃, δ): 2.47 (3H.s), 2.84 (3H.s), 6.5-7.3 (9H.m)
Mass (m/z): 363 (H⁺)
8) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール塩酸塩
融点: 200-202°C
IR (KBr): 2725, 2900, 2450, 1600, 1520,

4) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル塩酸塩
融点: 115-120°C
IR (KBr): 3400, 2650, 2450, 2250, 1600, 1515 cm⁻¹
NMR (DMSO-d₆, δ): 2.46 (3H.s), 2.74 (3H.s), 6.67 (2H.s), 6.5-7.4 (9H.m)
Mass (m/z): 320 (H⁺)
5) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル塩酸塩
融点: 175-177°C (分解)
IR (KBr): 2630, 2450, 2250, 1600, 1515 cm⁻¹
NMR (DMSO-d₆, δ): 2.74 (3H.s), 2.76 (3H.s), 6.53 (2H.s), 6.7-7.8 (9H.m)
Mass (m/z): 336 (H⁺), 319
6) 1-[2-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール
融点: 1500 cm⁻¹
NMR (DMSO-d₆, δ): 2.78 (3H.s), 3.26 (3H.s), 6.8-8.0 (9H.m), 8.42 (2H.s)
Mass (m/z): 395 (H⁺)
9) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール塩酸塩
融点: 171-172°C
IR (KBr): 2625, 2450, 1500 cm⁻¹
NMR (DMSO-d₆, δ): 2.76 (3H.s), 6.6-7.8 (10H.m)
Mass (m/z): 379 (H⁺)
10) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-3-(メチルスルホニル)-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール塩酸塩
融点: 209-211°C
IR (KBr): 2650, 2450, 1600, 1515 cm⁻¹
NMR (DMSO-d₆, δ): 2.74 (3H.s), 3.26 (3H.s), 3.35 (3H.s), 6.7-8.0 (9H.m)
Mass (m/z): 405 (H⁺)

11) 3-(ジフルオロメチル)-1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール

融点: 128-129°C

IR (KBr): 3360, 1610, 1530 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 2.47 (3H, s), 2.64 (3H, s), 6.4-7.2 (10H, m)

Mass (m/z): 345 (H^+)

12) N-メチル-1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 197-198°C

IR (KBr): 3400, 1670, 1650, 1610, 1560, 1528 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 2.86 (3H, s), 2.92 (3H, d, J=8Hz), 3.06 (3H, s), 4.03 (1H, s), 6.5-8.0 (10H, m)

Mass (m/z): 384 (H^+)

13) N,N-ジメチル-1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキシ

酸ニテラエステルを実施例3と同様にして反応させて、1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボン酸を得る。

融点: 235-240°C (分解)

IR (KBr): 3400, 1715, 1610, 1530 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 2.69 (3H, s), 3.24 (3H, s), 6.09 (1H, m), 6.55 (2H, d, J=9Hz), 7.05 (2H, d, J=9Hz), 7.17 (1H, s), 7.53 (2H, d, J=8Hz), 7.69 (2H, d, J=8Hz)

Mass (m/z): 371 (H^+)

(以下余白)

ル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 204-205°C

IR (KBr): 3420, 1620, 1530 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ): 2.86 (3H, s), 3.07 (3H, s), 3.14 (3H, s), 3.44 (3H, s), 4.00 (1H, s), 6.4-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 398 (H^+)

14) 1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボキサミド

融点: 215-216°C

IR (KBr): 3470, 3370, 3160, 1975, 1610, 1530 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 2.69 (3H, d, J=5Hz), 3.24 (3H, s), 6.07 (1H, q, J=5Hz), 6.55 (2H, d, J=9Hz), 7.0-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 370 (H^+)

実施例46

実施例44と同様にして得られた1-[4-(メチルアミノ)フェニル]-5-[4-(メチルスル

実施例47

1-[4-フルオロフェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-カルボニトリル (1g)、塩化アンモニウム (0.25g) およびアジ化ナトリウム (0.24g) のN,N-ジメチルホルムアミド (10ml) の混合物を105°Cで10時間攪拌する。混合物を水に注ぎ、析出物を集め、水洗後、エタノールとテトラヒドロフランの混合物から再結晶して、1-[4-フルオロフェニル]-5-[4-(メチルスルホニル)フェニル]-3-(5-テトラゾリル)ピラゾール (0.71g) を結晶として得る。

融点: 278-279°C (分解)

IR (KBr): 3150, 1655, 1620, 1600, 1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 3.27 (3H, s), 7.3-7.6 (7H, m), 7.95 (2H, d, J=8Hz)

Mass (m/z): 384 (H^+)

実施例47と同様にして下記の化合物 (実施例46-1) および (46-2) を得る。

実施例48

1) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]-3-(5-テトラゾル)ピラゾール

融点: 242-243°C (分解)

IR (KBr): 1605, 1510 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.48 (3H, s), 7.1-7.6

(9H, m)

Mass (m/z): 352 (H^+)

2) 1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]-3-(5-テトラゾル)ピラゾール

融点: 272-273°C (分解)

IR (KBr): 1615, 1510 cm^{-1}

NMR (DMSO- d_6 , δ): 2.79 (3H, s), 7.3-7.8

(9H, m)

Mass (m/z): 368 (H^+)

実施例49

エチル 4-[4-(ホルミルアミノ)フェニル]-2,4-ジオキソプタノエート (5 g) と

ニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]-3-ピラゾールアミン (1 g)、アセトニトリル (1 ml)、硫酸 (0.6 ml) および水 (1.6 ml) の混合物に加える。混合物を0°Cで30分間攪拌する。得られた混合物を臭化第一銅 (645mg)、臭化ナトリウム (582mg)、臭化水素酸 (1.7 ml) および水 (3 ml) の混合物に80°Cで少量づつ加える。混合物を80°Cで30分間攪拌し、トルエンで抽出する。抽出物を水洗し、乾燥後、減圧濃縮する。得られた残渣をシリカゲル (10 g) カラムクロマトグラフィーで精製して、3-プロモ-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール (0.36 g) を結晶として得る。

融点: 96-99°C

IR (KBr): 1600, 1510, 1680 cm^{-1}

NMR (CDCl $_3$, δ): 2.48 (3H, s), 6.49 (1H, s),

6.9-7.3 (8H, m)

Mass (m/z): 364 (H^+)

4-フルオロフェニルヒドラジン塩酸塩 (4.1 g) の酢酸 (30 ml) 中混合物を100°Cで2時間攪拌する。混合物を濃縮し、残渣を10%塩酸 (10 ml) とメタノール (40 ml) で60°Cで2時間処理する。母液を除去し、残渣を水に溶解する。得られた溶液を中性とし、酢酸エチルで抽出する。抽出物を水洗し、乾燥後、減圧濃縮する。残渣をエタノールで洗浄して、5-(4-アミノフェニル)-1-(4-フルオロフェニル)ピラゾール-3-カルボン酸エチルエステル (3.4 g) を結晶として得る。

融点: 158-160°C

IR (KBr): 3450, 3350, 3250, 1720, 1640,

1610, 1510 cm^{-1}

NMR (CDCl $_3$, δ): 1.42 (3H, t, J=7Hz), 4.44

(2H, q, J=7Hz), 6.5-7.4 (9H, m)

Mass (m/z): 325 (H^+)

実施例50

亜硝酸ナトリウム (0.26 g) の水 (0.3 ml) 溶液を食塩水浴で冷却した1-(4-フルオロフェニル)-

実施例51

4-プロモ-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール (1.9 g) とシアン化第一銅 (0.7 g) の混合物を200°Cで5時間加熱する。混合物を酢酸エチルで抽出し、抽出物を減圧濃縮する。残渣 (0.95 g) をシリカゲル (20 g) カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムで溶出して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール-4-カルボニトリル (0.95 g) を結晶として得る。

融点: 122-125°C

IR (KBr): 2230, 1600, 1505 cm^{-1}

NMR (CDCl $_3$, δ): 2.50 (3H, s), 7.0-7.8 (8H,

m), 8.00 (1H, s)

Mass (m/z): 309 (H^+)

実施例52

臭素 (0.9 g) のジクロロメタン (2 ml) 溶液を水洗した1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メチルチオ)フェニル]ピラゾール

(1.6 g) のジクロロメタン(10 ml) 溶液に滴下する。混合物を5℃で1時間攪拌し、蒸留瓶水素ナトリウム溶液および水で洗浄し、乾燥後、減圧濃縮する。残渣(1.9 g) をエタノールから再結晶して、4-プロモ-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルオ)フェニル]ビラゾール(1.3 g) を結晶として得る。

融点: 85-87℃

IR (KBr-A): 1600, 1510 cm^{-1}

Mass (m/z): 364, 352

実施例53

1-[4-(メタルオ)フェニル]-3,3-ビス(メタルオ)-2-プロペン-1-オン(2.7 g) と4-フルオロフェニルヒドラジン水和物(1.8 g) の酢酸(15 ml) 中混合物を100℃で7時間攪拌する。溶液を留去し、残渣をエタノールに溶解する。不溶物を濾去し、濾液を減圧濃縮する。残渣をシリカゲル(25 g) カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムで溶出して、1-(4-フルオロフェニル)-3-(メタルオ)

オ)-5-[4-(メタルオ)フェニル]ビラゾール(0.73 g) を結晶物として得る。

IR (KBr-A): 1590, 1510 cm^{-1}

NMR (CDCl_3 , δ): 2.48 (3H, s), 2.59 (3H, s),

6.40 (1H, m), 6.9-7.4 (8H, m)

実施例53と同様にして下記の化合物(実施例54)を得る。

実施例54

3-(メタルオ)-5-[4-(メタルオ)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)ビラゾール

融点: 71-73℃

IR (KBr-A): 1595, 1515, 1600 cm^{-1}

Mass (m/z): 367 (H^+)

実施例55

5-(4-アミノフェニル)-1-(4-フルオロフェニル)ビラゾール-3-カルボキサミド(0.27 g) と塩化メタンスルホン(0.03 g) のピリジン(5 ml) 中混合物を80℃で5時間攪拌する。溶液を留去し、残渣を酢酸エタールと水の混合

物に溶解する。有機層を分離し、水洗後、乾燥し、減圧濃縮する。残渣をエタノールから結晶化して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスルホンアミノ)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル(0.19 g) を得る。

融点: 202-205℃

IR (KBr-A): 3180, 2250, 1615, 1510 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 3.05 (3H, s), 7.1-7.5

(9H, m), 10.08 (1H, s)

Mass (m/z): 356 (H^+), 277

実施例56

1-(2-アミノ-4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスルホン)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル(0.87 g)、炭化メタル(0.69 g) および炭酸カリウム(0.27 g) のN,N-ジメチルホルムアミド(5 ml) 中混合物を45℃で19時間攪拌する。混合物を水に注ぎ、酢酸エタールで抽出する。抽出物を水洗し、乾燥後、減圧濃縮する。残渣(1 g) をシリカゲル(15 g) カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホ

ルムで溶出する。

最初の溶出液から1-(2-(ジメチルアミノ)-4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスルホン)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル(0.11 g) を得る。

融点: 200-202℃

IR (KBr-A): 2250, 1620, 1500 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 2.11 (6H, s), 3.21 (3H,

s), 6.7-7.9 (8H, m)

Mass (m/z): 384 (H^+)

次の溶出液から1-[4-フルオロ-2-(メタルアミノ)フェニル]-5-[4-(メタルスルホン)フェニル]ビラゾール-3-カルボニトリル(0.44 g) を得る。

融点: 192-193℃

IR (KBr-A): 3450, 2250, 1620, 1530 cm^{-1}

NMR ($\text{DMSO}-d_6$, δ): 2.65 (3H, d, J=3Hz), 3.23

(3H, s), 5.68 (1H, q, J=3Hz), 6.3-6.0 (8H,

m)

Mass (m/z): 370 (H^+)

実施例57

1-(4-フルオロフェニル)-3-(メタルチオ)-5-[4-(メタルチオ)フェニル]ピラゾール(0.73g)、30%過酸化水素(1.5ml)および濃硫酸(2滴)の酢酸(10ml)中混合物を60℃で4時間攪拌する。腐蝕を除去し、残渣を酢酸エタールに溶解する。溶液を炭酸水素ナトリウム水溶液および水で順次洗浄し、乾燥後、濃縮する。残渣を酢酸エタールとエタノールの混合物から再結晶して、1-(4-フルオロフェニル)-3-(メタルスルホニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール(0.54g)を結晶として得る。

融点：209-210℃

IR (KBr): 1800, 1515 cm^{-1}

¹HMR (DMSO-d₆, δ): 3.28 (3H, s), 3.38 (3H, s), 7.5-8.0 (9H, m)

Mass (m/z): 394 (M^+)

実施例57と同様にして下記の化合物を実施例58)を得る。

IR (薄膜): 1600, 1510 cm^{-1}

¹HMR (CDCl₃, δ): 2.44 (3H, s), 4.84 (2H, s), 6.49 (1H, s), 6.8-7.3 (8H, m)

Mass (m/z): 332 (M^+)

次の母出液から酢酸1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルチオ)フェニル]-3-ピラゾールメタル(0.5g)を抽出物として得る。

IR (薄膜): 1740, 1600, 1515 cm^{-1}

¹HMR (CDCl₃, δ): 2.11 (3H, s), 2.44 (3H, s), 5.14 (2H, s), 6.45 (1H, s), 6.8-7.3 (8H, m)

実施例59

塩化アセチル(0.48g)の酢酸エタール(10ml)溶液を氷浴した1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルチオ)フェニル]ピラゾール-3-イメルメタルアミン(1.5g)とトリエチルアミン(1g)の酢酸エタール(50ml)溶液に滴下する。混合物を5℃で1時間攪拌し、希塩酸、炭酸水素ナトリウム溶液および水で順次洗浄し、乾

実施例58

3-(メタルスルホニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]-1-(4-ニトロフェニル)ピラゾール

融点: 187-189℃

IR (KBr): 1600, 1530, 1500 cm^{-1}

Mass (m/z): 421

実施例59

4-フルオロ-1-[4-(メタルチオ)フェニル]ピラゾール-1,3-ジオン(2g)と4-フルオロフェニルヒドラジン塩酸塩(1.5g)の酢酸(10ml)中混合物を5時間還流する。腐蝕を除去し、残渣を酢酸エタールに溶解する。得られた溶液を炭酸水素ナトリウム水溶液で洗浄し、乾燥後、減圧濃縮する。残渣(3g)をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムで溶出する。最初の溶出液から3-(クロロメチル)-1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルチオ)フェニル]ピラゾール(1.3g)を抽出物として得る。

乾燥、減圧濃縮する。N-(1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルチオ)フェニル]ピラゾール-3-イメルメタル)アセトアミドを含む副産物(2.5g)とm-クロロ過安息香酸(2.5g)のジクロロメタン(50ml)中混合物を室温で一晩攪拌する。混合物を炭酸水素ナトリウム溶液で洗浄し、減圧濃縮する。N-(1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-イメルメタル)アセトアミドを含む残留物(2.1g)にエタノール(40ml)と濃塩酸(15ml)を加える。混合物を7時間還流し、濃縮乾固する。残渣を氷に溶解し、溶液を水酸化ナトリウムでアルカリ性とし、酢酸エタールで抽出する。抽出物を氷洗し、乾燥後、減圧濃縮する。得られた残渣(1.4g)をシリカゲル(100g)カラムクロマトグラフィーに付し、クロロホルムとメタノールの混合溶液(10:1)で溶出して、1-(4-フルオロフェニル)-5-[4-(メタルスルホニル)フェニル]ピラゾール-3-イメルメタルアミン

特開平3-141261(80)

(1.0g) を結晶として得る。

融点 : 150-152°C

IR (KBr- ν) : 3380, 3300, 1600, 1510 cm^{-1}

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3 , δ) : 1.65 (2H, s), 3.07 (3H, s),

3.99 (2H, s), 6.57 (1H, s), 7.0-7.5 (6H,

m), 7.87 (2H, d, J=8Hz)

Mass (m/z) : 345 (M^+)

特許出願人 藤沢薬品工業株式会社

代理人 弁理士 青木 高

